ＤＩＳＣ　１
第壱話　使徒、襲来
EPISODE：１　ANGEL ATTACK
●平成７年10月４日放映
＊＊＊
『新世紀エヴァンゲリオン』は『王立宇宙軍』『トップをねらえ！』『ふしぎの海のナディア』で知られるＧＡＩＮＡＸが、五年ぶりに発表したＴＶシリーズである。
本作ではＧＡＩＮＡＸが制作だけでなく企画・原作も担当。同社と、監督の庵野秀明の個性が極めて色濃く出たシリーズとなっている。特に、この第壱話と第弐話にはＧＡＩＮＡＸのベストメンバーが集結。実制作にほぼ半年もの期間をかけただけのことはあり、ファンの期待を裏切らない仕上がりである。

脚本／庵野英明
絵コンテ／摩沙雪　庵野秀明
演出／鶴巻和哉
作画監督／鈴木俊二
設定補／あさりよしとお　きお誠児　今掛勇
＊＊＊
Ａ　ｐａｒｔ
＊＊＊
【Ｃｕｔ１　海中に沈んだ東京】
ビルが海中に没した世界に巨大生物らしき存在が泳ぐというシーンから、本作のドラマはスタートする。東京が海に沈んでいるのは、セカンドインパクトと呼ばれる未曾有の大災害の為のだが、それが、多少なりとも本編で説明されるのは、第参話が最初。セカンドインパクトの真実が明らかになるのは、さらに先の事である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１８　看板】
シンジが電話をしているカット。画面の左上に「第三新東京市　１３㎞　御殿場　３５ｋｍ」の　看板　が。さりげなく重要な情報が入れ込まれている。本作の主な舞台となる第３新東京市とは、箱根・芦ノ湖周辺に建設中の計画都市。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２０　ミサトの写真】
書き文字は庵野監督の手によるもの。彼は作品中の手書きの文字を自ら描く事が多く、ＯＶＡ『トップをねらえ！』でも、彼の描き文字を数多く見る事ができる。キスマークはＧＡＩＮＡＸの女性スタッフのものをＭａｃで処理して使用している。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３０　使徒出現】
電柱とビルの向こう側に山があり、山と山の合間から使徒がヌッと姿を現す。本作にはこの様な特撮映画を思わせる画面作りが多い。
＊＊＊
【サブタイトル】

黒地に白の文字がＬ字型に並ぶ。この市川崑監督作品を思わせるエクセントリックなスタイルで、統一されている。第一話の一の文字を〝壱〟と古い漢字表記をするのも何とも趣味的である。なお、ＴＶ放映時には、これに、平仮名による読み仮名がつけられていた。

＊＊＊

【Ｃｕｔ３５　ミサイルと使徒】

画面手前から奥にミサイルが飛んでいくカットカメラワークは秀逸。この一連の使徒と国連軍の戦闘シーンの原画は『機動戦士ガンダム　００８０』一話冒頭のメカアクション、『おもひでぽろぽろ』のドン・ガバチョ等の作画で知られる磯光雄が担当。『エヴァンゲリオン』最初の見せ場に相応しいシャープでリアルタッチな物に仕上げている。

＊＊＊

【Ｃｕｔ４７　ミサトの自動車】

正式名称はアルピーヌ　ルノーＡ３１０（改）。ミサトが、自分持っていたガソリン車を電気自動車に改造したものである。ミサトは「３３回ローンが残っている」と言っているが、そのローンとは、車を買ったためのものではなく、その改造でかかった費用のローンのことだ。日本仕様の右ハンドル。第弐話にも登場する。

＊＊＊

【Ｃｕｔ６４　ミサイルを掌で受け止める使徒】

第壱話最大の見せ場の一つ。「目で見るＳＦ」の醍醐味と見えるＣｕｔである。ミサイルを受け止めた瞬間に使徒の腕がグッと太くなっている点に注目。

＊＊＊

【Ｃｕｔ６６　灰皿】

国連軍の軍人の前に置かれている灰皿はＮＥＲＶのロゴ入り。他にもコーヒーカップ等ＮＥＲＶのロゴの入ったアイテムは多い。

＊＊＊

【Ｃｕｔ７２　$N^2$地雷】

核ではないが、核兵器に近い威力を持った兵器。国連軍が使用するものとしては最強の兵器だが、使徒が持つＡ．Ｔ．フィールドにはさして通用しなかった。

＊＊＊

【Ｃｕｔ９９　顔が二つになる使徒】

「顔らしきもの」が破損したため、新しいものが下から生え、前の「顔らしきもの」はカサブタの様に上にへばりついている。このシーンでは、新しい「顔らしきもの」は半ば胴体に埋まっているが、以降のシーンで少しずつ露出していく。

＊＊＊

【Ｃｕｔ１０５　電気自動車のバッテリー】

持ち主のいない自動車からミサトが無断で拝借したもの。ミサトの車のバッテリーは$N^2$地雷の爆風でひっくり返った時に故障している。

＊＊＊

【Ｃｕｔ１０６　集光ビル】

ミサト達の自動車が走る先に建っている塔のような建造物は第３新東京市の集光ビルである。太陽の光を集め、ネルフ基地に電力を供給するためのものだ。

＊＊＊

【Ｃｕｔ１５１　泣いているシンジ】

一瞬だけインサートされる幼い頃のシンジ。父と別れた時の回想と思われる。絵コンテによれば場所はどこかの駅のホームである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５６　ＩＤカード】
シンジがミサトに手渡したのがＩＤ書類。身元確認のための情報が記されたものである。書類の左上に止められているのがＩＤカードであり、Ｂパートのシンジは、このＩＤカードを胸に止めている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１６４　ジオフロント】
第３新東京市地下作られた大深度地下都市。特務機関ネルフの本部はここの中央に位置している。ジオフロントは直径６㎞、中には湖や森もある。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１６９Ａ　地図】
ミサトが持っていたのは、広大なネルフ本部の内の「セントラルドグマＢ２０」の地図。方向音痴のミサトは、自分がよく使うトイレの位置二ヶ所に印をしている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９１　零号機の手】
昇降機で移動中のシンジ達の向こう側に見える巨大な手は、ＥＶＡ零号機のものである。壁の向こう側は第弐話で見る事ができる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２３６　ビルの爆発】
第壱話、第弐話には、十字架の形をした爆発やスパークが何度か登場する。これもその中に一つ。
意味深である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２８５　真剣なミサト】
初号機がシンジを助ける為に動いたのを見てミサトは「……いける」と呟く。このカットは、絵コンテで「（第壱話で）一番真剣な顔」と指示されている。この時、彼女はシンジを道具として見ている。第弐話の入浴シーンで、この時の自分を後悔する事になる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２９１　逃げちゃ駄目だ、逃げちゃ駄目だ、逃げちゃ駄目だ……】
シンジが自分に言い聞かせる様に口にする台詞、本作のテーマ、シンジのキャラクターの本質に、密接に関係している。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３０２　ＬＣＬ】
エントリープラグ内に満ちたされる溶液。ＥＶＡとパイロットを繋ぐだけでなく、羊水が胎児を守る様にパイロットを保護する。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３１０　Ａ$^{10}$神経】
脳のドパーミン神経細胞の一つ。記憶や認知、連動遂行等の高次な脳機能と不安や恐れ、幸福感や快感などの情動と関係する。ＥＶＡとパイロットは、このＡ$^{10}$神経の強いシンクロにより一体となるのだ。

第弐話　見知らぬ、天井
EPISODE：2　THE BEAST
●平成７年10月11日放映
＊＊＊
第壱話とで前後編になっている。第壱話は、初号機と使徒の戦闘開始直前で終わっているが、第弐話では、その続きから始まる形にはなっていない。第壱話のラストの数日後から話が始まり、使徒と初号機の戦闘は回想シーンとして描くというトリッキーな構成をとっているのだ。演出スタッフの個性反映された異色な構図も多い。

脚本／榎戸洋司　庵野秀明
絵コンテ／摩沙雪　庵野秀明
演出／鶴巻和哉
作画監督／本田雄
設定補／あさりよしとお　きお誠児
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９３　歩く初号機】
エヴァンゲリオンが本格的に動いたのはこれが始めてであった。この時の、ネルフスタッフの「お〜〜」という声は、それに対する感嘆である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１２　会議】
出席者は碇ゲンドウ、キールローレンツ、人類補完委員会の四人の委員。バイザーをつけた人物、キール・ローレンツは人類補完委員会の最高責任者。四人の委員は世界各国の代表である。この会議は各国にいる委員達が立体映像で参加、互いの顔を見ながら話すというバーチャルなものだ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１８　紙コップ】
ＴＶの周辺に、ＮＥＲＶのロゴマークつきのマグカップが置かれている。口紅がついているのは、コーヒー好きのリツコが飲んだものである。次のＣｕｔでもリツコは、ミサトの背後でコーヒーを飲んでいる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２６　「人類補完計画」】
会議中に「極秘　人類補完計画第１７次中間報告」と書かれた文字がインサートされる。これは、テーブル上の画面に映し出されている映像。すなわち、ゲンドウの見ている映像を、インサートしたという想定のカッティングである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ５３　建築現場】
次なる使徒との戦いに構え、兵装ビルにエヴァンゲリオンが使用するパレットガン、弾薬が装填され、巨大ソケットが街の非常電源に取りつけられている。クレーンで運ばれている四角い機械は、巨大な電池だ。実際に兵装ビルがどの様なものかが描かれるのは第参話からである。このシーンでミサトはトレーラーから自分の車に乗り換え、シンジのいる病院へと向かった。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６９　天井ビル最下階】

ミサトとシンジが士官と、シンジの住居について話をしている場所は、ジオフロント内部の天井ビルの最下階。足下にネルフ本部が見える。
＊＊＊
【Ｃｕｔ７８　コンビニ有線】
シンジとミサトが入ったコンビニに、有線で歌謡曲が流れている。この曲は、ゲーム「イース」のイメージアルバム「Lilia～from YS～」に収録された「You are the only one」。ヴォーカルは勿論、三石琴乃である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ９０　生えてくるビル】
第３新東京市のビルは、地上とジオフロント内部をエレベーターの様に上下する。ビルのジオフロント内にぶら下がった部分を「天井ビル」と呼ぶ。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【アイキャッチ】
本作は英文のタイトルとサブタイトルを、Ｂパート頭のアイキャッチ画面で表示するというスタイルをとっている。この英文サブタイトルは、必ずしも日本語サブタイトルの直訳ではない。この第弐話なら日本語が「見知らぬ、天井」で英文サブタイトルが「THE BEAST」である。この BEAST とは使徒の事なのか、それとも？
＊＊＊
【Ｃｕｔ９９　ミサトのマンション】
正式名称は「コンフォート 17 マンション」。12 階建ての全１５８部屋。ミサト達が住んでいるのは、その 11 階である。このマンションには、他に住人はいない。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１０９　ミサトの部屋の雑誌】
自動車雑誌が多い。ベッドの周りにも何冊か落ちている。美術設定では、タンスやカラーボックスの上に自動車の模型が置いてある事になっている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１１６　エビスビール】
ミサトの愛飲しているビールは、通好みの YEBISU。冷蔵庫の中は YEBISU が一杯である。ＴＶ放映されたものでは「YEBICHU」という架空の銘柄になっていた。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３７　「おっとこの子でせう」】
ミサトの台詞。第壱話と第弐話で、彼女はシンジに同様の意味の事を三回言う。この台詞は、アフレコ台本にも「おっとこの子でせう」と表記されている。独特の言語感覚である。ちなみに、この前後の原画を担当したのは『美少女戦士セーラームーン』シリーズで知られる長谷川眞他。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５１　冷蔵庫の中】
ミサトのマンションには冷蔵庫が二つあり片方がペンペンの寝屋である。画面をよく見ると、冷蔵庫の中にウォーターベッドとスタンドがあるのが分かる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５６　ミサトのモノローグ】
「ちと、ワザとらしくハシャギ過ぎたかしら。見透かされているのは、こっちかもね」とミサト。

この台詞で、彼女がシンジに対し意識的に「明るくて、優しいお姉さん」を演じていた事が分かる。そして、シンジもそれに気がついて、わざとハシャいでいるのではないかと疑っているのだ。本作品の人間描写の特性が端的に現れている。

＊＊＊

【Ｃｕｔ１５８　フラッシュバック】

ゲンドウとレイの映像が、フラッシュバックで入る。風呂に浸かって「嫌な事」を思い出しているシンジの意識を表現したもの。

＊＊＊

【Ｃｕｔ１６１　ネルフ本部実験場】

凍結中のエヴァンゲリオン零号機。これが第壱話で登場した巨大な手の、壁の向こう側である。何故零号機が凍結中なのか、管制室がボロボロになっているのかが、本編で描かれるのは、まだ先の事。零号機の首の付け根の部分に打ち込まれている十字架は停止信号プラグである。

＊＊＊

【Ｃｕｔ１６６　ＳＤＡＴ】

このシーンでシンジが使っているのは、彼愛用の携帯用ＳＤＡＴ。聴いているのはインストゥルメンタル曲の様だ。

＊＊＊

【Ｃｕｔ１８２、１８３　フラッシュバック】

戦闘シーンを中心にしたフラッシュバック。モザイク処理のコマや画面が上下逆のコマもあり、使徒との戦闘時のシンジの意識が、混乱していた事がよく分かる。

＊＊＊

【Ｃｕｔ２５２　シンジのＵＰ】

ＥＶＡ暴走寸前のシンジ。「キャラクターのＵＰを広角で撮った」映像である。広角気味に作画したものを、さらにＣＧで処理する前の映像は、Ｃｕｔ１８３のフラッシュバックで見る事ができる。

＊＊＊

【Ｃｕｔ３２４　初号機の中身】

シンジが見た、初号機の内部は生物的なものであった。それが何なのか。真実が明らかになるのは、まだまだ、先の事である。

＊＊＊

第参話　鳴らない、電話
EPISODE：3　A transfer
●平成７年10月18日放映
＊＊＊
第参話は第四話とで前後編になる構成で、自分の殻に閉じこもりがちなシンジが、新しい環境に戸惑い、悩みつつも、他者とのコミュニケーションの第一歩を踏み出すまでを描く。リアルタッチの学校の描写はなかなか新鮮。鈴原トウジと相田ケンスケのコンビの描写も秀逸である。第３新東京市の戦闘システム、初号機の性能も多く明らかになる。

脚本／薩川昭夫　庵野秀明
絵コンテ／鶴巻和哉　石堂宏之
演出／石堂宏之
作画監督／細井信宏
設定補／あさりよしとお　鶴巻和哉
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１　仮想訓練場】
ＥＶＡのモニター内に、外界の映像を移して戦闘等の各種訓練を行う為の訓練場。ＥＶＡに取りつけられたコードは、映像や音声のデータを送るためのものである。ここで行なわれていたのは基地基本戦闘パターンを取得するためのインダクション・モード。第壱話、第弐話の戦闘で得られた第３の使徒の映像データを元に作られた戦闘シミュレーションのプログラムが使われている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２　性能解説】
赤木リツコによってＥＶＡの性能が語られる。体内電池に切り替えると蓄電容量の関係でフルで一分、ゲインを利用しても、せいぜい五分しか稼働できない、と彼女は語っている。ゲインとは電力を有効に使うシステムの事と思われる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ５　パレットガン】
初号機の一般的な装備の一つ、劣化ウランペレット（パレット）を、リニアレールで打ち出す銃である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２８　ミサトのマンション】
よく見るとミサトの部屋以外は雨戸が閉まっている。これは他の部屋には誰も住んでいない為。後のシーンでゴミ捨て場に他のゴミが出ていないのも同様の理由である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２８　朝のワイドショー】
シンジが見ていたのだろう。画面の外からＴＶのワイドショーの音声が聞こえている。お天気お姉さんがダイビングスポットからレポートしているのだが、ここで『エヴァンゲリオン』の世界では、日本には春夏秋冬の季節が無く、一年中暑いという事実が語られている。本作では、この様に劇中で流れるＴＶ音声等を作り込んでいる場合が多い。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２９　味噌汁】

食堂のテーブルの上で、茶碗の隣に置かれているのはカップ味噌汁。これは、シンジがミサトのために用意した朝食の支度である。彼がまめに家事をやるようになるのは、もう少し後の事だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４２　灰皿と猫の小物】
リツコの机の上に、小さい猫の置物が二つ置かれている。猫の小物を集めるのが彼女の趣味なのだ。また、吸い殻で一杯の灰皿もヘビースモーカーぶりをうかがわせる。リツコは例によってコーヒーを飲んでいる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４９　ヤマアラシのジレンマ】
ショーペンハウエルの寓話に由来する心理学用語。人と人の心理的距離の取り方を巡る葛藤とアンビバレンスを表す。コミュニケーションとディスコミュニケーションは『エヴァンゲリオン』において重要なテーマの一つであり、ここでの台詞はそのテーマに関連して雄弁に語っている。それと同時に、ミサトのコミュニケーションに関する考え方を伺う事ができるという点でも興味深い。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４９　第３新東京市第壱中学校】
シンジ達が通う中学。レイもここに通っている。外見に関しては取り立てて変わった事はないが、疎開で生徒が少なくなっているため、使われていない教室が多い。一クラスの生徒の数も少なく３０人程度。
＊＊＊
【Ｃｕｔ５９　プラスティックモデル】
ミリタリーマニアのケンスケが持っているのは、第壱話に登場した国連軍の重戦闘機の模型。世界最新鋭の兵器である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ８０　授業】
老教師により、セカンドインパクトが語られる。ここでは宇宙から飛来した巨大隕石が南極大陸に激突した為に起きた大災害と説明されている。ちなみに、この数学教師は、この様に授業中に脱線してセカンドインパクトの思い出話を始めてしまう事がよくある。生徒達が退屈しているのは、何度も聞かされているため。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３０　戦闘形態に移行】
第３新東京市は、戦闘時には非戦闘ブロックを地下に格納する。格納された非戦闘ブロックはジオフロント内部から見ると天井からぶら下がった形になっており、その状態は、天井ビルと呼ばれる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１４３　第３３４地下避難所】
第３新東京市に数多く設置されている避難所の一つ、床総面積２０００㎡。最大収容人員２５０名。第３新東京市第壱中学校近くに位置しており、生徒が学校にいる時間に緊急事態が生じた際は、生徒達と付近の住人がここに避難する。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１４９　第４の使徒】

ミサトの台詞から、この使徒が人類の前に現れた第４の使徒であるらしい事が分かる。実際に、本編に登場した使徒としては二体目。それでは、１５年前に二体の使徒が現れたのだろうか。ここではそうした謎が示されるだけである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５３　偽装迎撃システム】
通常はそれと分からない様に、偽装された迎撃システム。ネルフではなく、国連軍の管轄下にある。ここでは山腹のミサイル陣地と対空ロープウェイ群が登場。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１６６　軽蔑の眼差し】
「便所に行く」と下品に言うトウジ達を、委員長は軽蔑の眼差しで見る。絵コンテによれば「下衆なオスどもが……」と思っているとの事。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１６８　「お前、ホンマ、自分の欲望に素直なやっちゃな」】
トウジの台詞。ケンスケとトウジの関係がよく分かる。ケンスケの「トウジには、あいつの戦いを見守る義務があるんじゃないのか」という台詞は方便である。それはトウジにも分かっているが、そこまで言うのなら乗ってやるかと思っているのだ。トウジに協力させるには、こういう風に持っていくのが一番いいとケンスケは思っている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２２２　コンセント】
内蔵電源に切り替えられたため、背中のコンセントが外され地面に落下。落ちたコンセントがバスを破壊してしまった。画面右手前が使徒によって断面。コンセントの巨大さがよく分かるＣｕｔである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２３３　鳥居と初号機】
第参話も、戦闘シーンに特撮映画を思わせるダイナミックな画面作りが多く、楽しませてくれる。鳥居を初号機の手前に置いた、この構図も、その一つ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２４０　ＩＤデータ】
ネルフ本部には、第３新東京市の全ての居住者のＩＤデータが保存されており、瞬時に検索できるようになっている。この画面を見ると、トウジとケンスケの本籍、生年月日等が分かる。やはり、トウジの本籍は大阪であった。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２７９　爪】
使徒の鞭毛を握り、初号機の掌は焼け爛れ、爪の生えた、生身の手らしきものが露出する。果たして、エヴァンゲリオンとは一体……。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３０１　コア】
第３の使徒との戦闘でも分かる様に、使徒の弱点と思われるのが赤い光球である。シンジは無意識の内にこの光球をプログレッシブ・ナイフで貫いた為、使徒を倒す事ができたのだ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３２９　パソコンモニター】
ケンスケが作っているのは、エントリープラグの３Ｄモデル。エントリープラグに入った時の記憶を頼りにこの３Ｄモデルを作っているのだ。シンジが教室でＥＶＡのパイロットである事が露見した時も、シンジの発言をパソコンに打ち込んでいた。

＊＊＊
【Ｃｕｔ３３０　「アイツって？」】
ケンスケのわざとらしい台詞。彼はトウジが、シンジの事を言い出すのを待っており、わざとトボケた事を言っているのだ。既に電話番号を調べて持っていた点に注目。彼は本作の登場人物には珍しい人付き合いの才能のある人物である。
＊＊＊

第四話　雨、逃げ出した後で
EPISODE：4　Hedgehog's Dilemma
●平成7年10月25日放映
＊＊＊
互いに身を寄せ合おうとして、傷つけ合い、そして、それでもなお身を寄せずにはいらない、二匹の小動物の様なシンジとミサトの二人を描く。ＥＶＡが全く活躍しないエピソードであるが、そのテーマを考えれば実に『エヴァンゲリオン』的なエピソードであるとも言える。
エコンテの甚目喜一とは『美少女戦士セーラームーン』等で知られる佐藤順一。これは彼がロボットアニメの絵コンテを担当した際に使うペンネームなのだ。この後も、彼は『エヴァンゲリオン』で戦闘シーンのほとんど無い、ドラマ中心のエピソードを手がけることになる。薩川昭夫は実写映画『屋根裏の散歩者』等を手がけた脚本家。ＧＡＩＮＡＸファンは『ふしぎの海のナディア』での凝ったフィルム編集の仕事も忘れられない。この第参話、第四話でも、彼の練り込んだ台詞を堪能することができる。

脚本／薩川昭夫
絵コンテ／甚目喜一
演出／加賀剛
作画監督／重田智
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ３　目覚まし時計】
ミサトの布団の脇に置いてある。ＮＥＲＶのロゴマーク入りである。秘密の組織の割にネルフにはこういった製品が多い。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３４　環状線】
正式名称は第３新東京市第７環状線。第３新東京市は中央に兵装ビル等の建つ新市街がり、その周囲を旧市街が取り囲む、というのが概ねの形である。この 環状線は旧市街を走っており、その半径は、現在の東京・山手線くらいと思われる。一本のレールの上を走るリニアモーターカーだが、意外と振動も騒音もある。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４８　映画】
シンジが入ったオールナイト興行の映画館でかかっていた映画は、セカンドインパクトをモデルにしたパニック映画。かなりクラシックなタイプの作品である様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６４　映画館の看板】
シンジが入った映画館の看板。フレームアウトしているが「世界水没……」「セカンドインパクト」等のタイトルを読みとる事が出来る。パニック映画特集だったのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ８６　芦ノ湖】
歩くシンジの向こう側に見える湖は芦ノ湖である。大抵の子供の家出が、親が連れ戻してくれる範囲をウロウロするように、家出したシンジもミサトのもとから遠く離れはしない。
＊＊＊

【Ｃｕｔ８９　第３新東京市全景】
シンジが山から見下ろしている都市は第３新東京市。遠くに建っている細長い建物は、集光ビル。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１０１　回想シーンの車】
車は１４式大型移動指揮車。同じ車両が第六話にも登場する。この回想は第３の使徒との戦いの直後の事である。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【アイキャッチ】
第四話の英文のサブタイトルは「Hedgehog's Dilemma」。ヤマアラシのジレンマは正確な英文表記では「Porcupine Dilemma」であるから、これは直訳ではない。Hedgehog はハリネズミの事。さて、わざわざ「ハリネズミのジレンマ」という英文サブタイトルをつけたのは何故なのだろうか。ヤマアラシとハリネズミでは、ヤマアラシの方が棘が堅くて長い。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３５　「夜は、いいよな。あのうるさい蝉が鳴かないから」】
ケンスケの台詞。第壱話以来、蝉の鳴き声があちこちのシーンで聞こえている。第参話の解説でも触れた様に、本作では、日本に四季が無く一年中、夏である。蝉の声がいつも聞こえるのは、生態系の変化と常夏の環境の両方の為なのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１６１　ミサトとシンジ】
ネルフ内の薄暗い部屋で再会するシンジとミサト。第三者から見れば、シンジの家出はミサトを含む周囲の状況に「甘える」為の行為である。このシーンでミサトはシンジを「大人として」叱ればよかったのかもしれない。ミサトは感情をむき出し、彼を拒絶してしまった。シンジの「家出」とミサトの「拒絶」が、「ヤマアラシのジレンマ」で言うところの棘なのである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１８９　新箱根湯本駅】
美術デザイン上のモデルは、小田急線の箱根湯本駅。現在の箱根湯本駅が位置する地域は『エヴァンゲリオン』の世界では水没してしまっている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９６　ネルフ保安諜報部の自動車】
黒服の男達に相応しい黒塗りの自動車。屋根に大きくＮＥＲＶと書かれている。なかなか大胆である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２１６　駅前商店街の歌謡曲】
シンジがトウジを殴った後、遠くから演歌が聞こえてくる。駅前商店街が流しているものと思われる。曲は、奥井雅美の歌う「Bay side love story -from Tokyo-」。アルバム「GYUU」に収録された曲だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２４３　政府専用の特別列車】
リニア式小田急ロマンスカー。画面では見えないが、展望席等もついている。民間人は乗る事ができない列車だが、シンジはこれに乗って第３新東京市を離れるはずだった。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２６１　ミサトの自動車】

アルピーヌ　レノーＡ３１０。第壱話、第弐話で登場したのは、同じ型の車を電気自動車に改造したものだが、ここに登場しているのは、改造していないガソリン車である。ハンドルも左ハンドルのまま、排気音も聞こえる。彼女はカーマニアでクラッシックカー（つまり、現代の自動車）を何台も所有しているのだ。現代においてもマニアックな車であるアルピーヌ　レノーＡ３１０も二台持っており、その片方を改造したのである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２７２　50秒の沈黙】
ほぼ50秒、ホームにいるシンジと、路上のミサトは、身動き一つ、台詞一つなく見つめ合う。大胆な演出である。また、このシーンにも奥井雅美のヴォーカル曲が流れている。前述のアルバム「GYUU」に収録されている「FACE」である。
＊＊＊

ＤＩＳＣ　２
第伍話　レイ、心のむこうに
EPISODE：5　Rei Ⅰ
●平成７年11月１日放映
＊＊＊
第伍話と第六話も前後編の構成。ドラマ的には零号機のパイロットである綾波レイにスポットが当てられ、アクション面においてはシリーズ前半最大規模の戦いである「ヤシマ作戦」が描かれる。ドラマ、アクションの両面において見応えのある前後編と言えよう。
第伍話は、日常描写に定評がある甚目喜一が絵コンテを担当。レイは自分の感情をほとんど見せぬ特殊なキャラクターだが、そのレイに興味を持ち接近しようとするシンジと、レイ自身の微妙な感情の揺れを、見事に描いている。作画監督は第壱話と同じ鈴木俊二が担当。ビジュアルのクオリティも高い。

脚本／薩川昭夫　庵野秀明
絵コンテ／甚目喜一
演出／杉山廣一
演出助手／六塚雅彦
作画監督／鈴木俊二
設定補／きお誠児
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ３　眼鏡】
起動実験のシーンでゲンドウがかけている眼鏡は普段のものと違っており、フレームが金色。この事件で眼鏡を壊してから、お馴染みの眼鏡に換えている。壊れた眼鏡は現在レイが持っている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３７　オートエジェクション】
緊急時に、エントリープラグをＥＶＡから射出しパイロットを守るシステム。通常は射出後パラシュートと逆噴射で着地するのだが、この時は室内の実験だった事もあり、その性能は発揮されなかった。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４５　特殊ベークライト】
熱硬化性樹脂の一種で、超速乾性の生コンクリートの様な性質を持つ。暴走した零号機の動きを止めるのに使用された。大変な強度を持っており、零号機の凍結を解除する為には、このベークライトを砕いて取り出さなくてはならなかった。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６４　「いえ……そんなはずはないわ」】
リツコの台詞。彼女はレイの精神不安定の原因に心当たりがある様だ。それは、どうやら彼女にとってあまり認めたくない事である様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６５　白いライン】
これは第４の使徒との戦いの際に初号機が落下した位置を、確認のためにネルフが引いたライン。まるで交通事故の現場の様だ。

＊＊＊
【Ｃｕｔ６８　仮設建造物】
ほぼ原型を留めて残された第４の使徒を調査する為に、活動停止した使徒の上にプレハブを組む形で建てられている。真上から見ると使徒のシルエットとほぼ同じ形になっており、中央の四つのプレハブの下には胴体部が、左の二つと右の三つのプレハブの下には鞭毛がある。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３２　レイの仕草】
ゲンドウの前にピョンと降りるレイの動作が、彼女にしては驚くほど女の子らしく大変に可愛らしい。ゲンドウが現れた事により気持ちが弾んでいるのだろうか。この動作は甚目喜一の絵コンテ段階での指示によるもの。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１４３　レトルトな食事】
この日の夕食はカレー、カップラーメン、コンビニの総菜、ビール、缶詰、そして何故かポテトチップス。カレーもレトルトのものに手を加えただけの様だ。この日は、料理当番はミサトだが、ご飯をよそうのはシンジが担当。学生時代からの友人であるリツコは、過去に何度かミサトの料理を食べた事がある様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１７１　不器用】
レイとゲンドウのことを「生きるのに不器用」とリツコは語る。リツコがどんな風にゲンドウを見ているのか、あるいは、どのくらいの距離の関係なのか、垣間見る事ができる台詞でもある。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１７４　マンモス団地】
かなり古く、他の住人が住んでいる気配が無い。場所は第３新東京市の旧市街地。この辺りはこれから再開発されていく地域で、道路を隔てた反対側はすでに建物が取り壊されている。レイの住む団地も遠からず取り壊される事になるのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１８１　玄関】
ドアの内側にはダイレクトメールが何通も突っ込まれたまま。下駄箱の上にも開けられていないダイレクトメールが山積みになっている。靴を履いたまま玄関から中に入った跡が無数にあるのにも注目。レイは外履きのまま部屋に出入りしているのだろう。さすがシンジは靴を履いたまま上がる事ができず靴を脱ぎ爪先立ちで入った。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１８５　レイの部屋】
家具はほとんど無く、壁は打ちっぱなしのコンクリート。ボヤでも起こしたのか天井の一部が焼けている。カーテンは黒いビニール。枕に血の跡。冷蔵庫の脇には血で汚れた包帯。冷蔵庫の上にはビーカーと薬。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９２　医学書】
設定によれば、チェストの上に載っているのは精神や遺伝等について書かれた医学書。レイはこれを熱心に読んでいるらしく付箋がつけられている。
＊＊＊

【Ｃｕｔ２２２　感触】
触った少女の胸の感触を確認する様に、シンジの左手が動く。この後も、シンジの左手は、やり場のない感じで宙に浮いている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２２６　ブラの付け方】
レイは、ブラのバック留めてから、カップが前にくる様に回している。一般的に言うと、これはあまりよくないブラの付け方である。レイは誰かに正しいブラの付け方を習う機会がなかったのだろう。本人もそういった事にあまり興味を持っていないに違いない。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２４１　本部第１無人ゲート】
第３新東京市にいくつかあるネルフ本部への入り口の一つ。ここを通過するにはセキュリティカードが必要。セキュリティカードが確認されると「おはようございます」等の文字が表示される。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２５２　目を見つめる】
シンジがゲンドウの悪口を言うと、レイは怒ってシンジの頬を打つ。本編でレイが感情を他人にぶつけた初めてのシーンである。頬を打つ前に彼女がシンジの目を見つめている事にも注目。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２５６　ロッカールーム】
レイがいるのは、ＥＶＡのパイロット用のロッカールーム。通常の服を入れる為の標準兼用ロッカーと、プラグスーツを入れるための減圧式乾燥ハンガーの二つで一人分である。それぞれに専用のロッカーがあてがわれており、使用するには、セキュリティカードが必要。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２５８　回想】
ゲンドウの事を思い出したレイは、うっすらと笑顔を浮かべる。この感情が、零号機の再起動実験の成功に繋がったものと思われる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３０５　円周部を加速、収束】
「円周部を加速、収束」とは、第５の使徒が荷電粒子を加速、収束させて加粒子砲を撃つ準備をしているという意味。使徒が加粒子砲で初号機を狙い撃ちしようとしている事を察知して、リツコは「まさか！」と驚いたのである。
＊＊＊

第六話　決戦、第３新東京市
EPISODE：6　Rei II
●平成７年11月８日放映
＊＊＊
ネルフが全力を上げて第５の使徒を殲滅しようとする「ヤシマ作戦」を、ミリタリータッチの演出で描き切っている。テロップを多用し、実録戦争映画風に見せるのは、『トップをねらえ！』以来の庵野秀明作品独特の演出法である。作戦のために日本中の電力を集めてしまうという発想も、実にＧＡＩＮＡＸらしい。メカの描写に関しては、物量、ディテールの細かさ共に圧倒的。零号機の作戦への初参加という事もあり、見どころ多し。

脚本／薩川昭夫　庵野秀明
絵コンテ／ 摩沙雪
演出／石堂宏之
作画監督／細井信宏
設定補／夢野れい
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９　ビルの間からビーム】
第５の使徒の加粒子砲は、ビルを貫いた先の部分のみ、肉眼で確認することができる。これは巻き上がった砂塵の中をビームが貫いている為。つまり、煙の中でレーザーが見えるのと同じである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４４　シールド】
第５の使徒の直接攻撃兵器。使徒内部から真下に伸び、攻撃をしかける。尖って見える先端部は、実はビーム状のカッターであり、このカッターが地面を破壊し、回転しながら地中に潜る。
＊＊＊
【Ｃｕｔ５５　バルーン・ダミーの銃】
バルーン・ダミーの初号機が持っているのは、ＥＶＡの接近戦用の兵器として作られた銃。初速が予定値に足りず、Ａ．Ｔ．フィールドは貫けないと判断され、試作段階で破棄されたのである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ８７　総司令官公務室】
ピラミッドの形をしたネルフ本部の頂上近くに位置する部屋。かなりの広さがあるが、床の上に置かれているのは、碇司令の机のみ。部屋の三面は一枚ガラスの窓であり、残り一面に出入口と巨大スクリーンがある。このシーンで、ミサトの背後にあるのがスクリーンと出入口。
＊＊＊
【Ｃｕｔ８８　スーパーコンピュータＭＡＧＩ】
ネルフの頭脳とも言えるスーパーコンピュータ。「MELCHIOR・１」「BALTHASAR・２」「CASPER・３」の三台三系のコンピュータで構成されており、ネルフにおける様々な計画、作戦について検討する。
＊＊＊
【Ｃｕｔ９８　戦自研】

戦略自衛隊技術研究所の略。戦略自衛隊は、２００３年の南沙諸島における中国とベトナムの軍事衝突を機に発足された、国防省直属の組織。英文で表記するとJapan Strategy Self Defense Force。略称はJSSDFで、ポジトロンライフルにも「JSSDF」と書かれている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１００　零号機初任務】
ポジトロンライフルを戦自研から徴用することが、零号機とレイの初めての任務だった。ＥＶＡが使徒との戦闘以外に使用された珍しい例である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１０４　ＴＶゲーム】
この時代のＴＶは緊急時にはゲーム等をやっている時でもニュース画面に切り替わる様になっている。ケンスケとトウジがやっているゲーム機はサターンの２０１５年バージョン。茶ファーストフードも健在である様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１０６　第２新東京市】
セカンドインパクトで首都東京が壊滅した後、長野に作られたにがこの第２新東京市である。表向きは、この第２新東京市に替わるものとして第３新東京市が建設されている事になっている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１１７　技術局第３課】
ネルフ本部の技術開発部は第１課から第４課までがあり、その第１課はリツコが所属している。ポジトロンライフルの改造を行った第３課は電磁光波火器担当。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１１９　ＥＶＡ専用耐熱光波防御兵器】
零号機の盾にする為、ＳＳＴＯの底部パーツに覗き穴を空け取っ手をつけたもの。ＳＳＴＯとはSINGLE STAGE TO ORBITの略。すなわち単段式軌道直行機。覗き穴はいかにも無理に空けた感じでイビツである。リツコが「２課の保証書付き」と言っているが、この場合の２課とはネルフの技術開発部第２課の事。材質工学が担当である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１２２　二子山】
第５の使徒の攻撃範囲外であり、手頃な変電施設がある為に、狙撃地点に選ばれた。箱根山の中央火口丘の一つで、二子山は芦ノ湖の東に位置する。文字通り山頂が二つに分かれており、上二子山と下二子山と呼ばれる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１２４　ヤシマ作戦】
「ヤシマ作戦」と表記する。このネーミングは、文治元年（１１８５年）の「屋島の戦い」で、那須与一が海上の馬上から、扇を弓で射抜いた事に由来する。さすがは葛城作戦部長。なかなかのインテリである。また日本の古称を八洲と言う。日本中の電力を集めた作戦ということで「八洲作戦」という意味を重ねているのかもしれない。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３４　生徒手帳】
レイが作戦内容を読み上げる時に、手に持っているのは第３新東京市立第壱中学校の生徒手帳。作戦内容を生徒手帳に書き込むあらり、中学生らしい。ちなみに、この病室は第弐話でシンジが目を覚ましたのと似ているが別の部屋。
＊＊＊

Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５１　初号機、零号機発進】
ＥＶＡの発進口は第３新東京市内に何ヶ所か用意されている。これはその内の一つ。ルート20番の発進口。第５の使徒に近い発進口を避け、第３新東京市中心から離れた発進口を使用したのだ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１８１　畳まれた服】
厳しくしつけられたのか、几帳面な性格なのか、シンジは自分の服をキチンと畳んでいる。それに対し、レイは服を脱ぎ散らかしている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２００　日本全景】
箱根を中心に日本中の街の明かりが消えていく。このＣｕｔで、セカンドインパクト後、水位の上昇の為、少し日本の形が変わっているのが分かる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２１４　14式大型移動指揮車】
ネルフ本部での作戦指揮が困難である為、「ヤシマ作戦」中の「二子山決戦」では、司令室が移動指揮車に移された。これは第四話で登場したのと同じ車両。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２５９　干渉】
初号機と第５の使徒が撃ったビームは、直進すればすれ違うはずだったが、そのエネルギーの高さゆえに互いに干渉し合い軌道がズレてしまった。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３０５　Ａ．Ｔ．フィールド】
初号機の第二射が第５の使徒を貫いた時、ほんの一瞬、肉眼で確認できるＡ．Ｔ．フィールドが出現している。だが、さしものＡ．Ｔ．フィールドも大出力のポジトロンライフルの敵ではなかった。
＊＊＊

第七話　人の造りしもの
EPISODE：7　A HUMAN WORK
●平成7年11月15日放映
＊＊＊
ネルフと政府の対立を背景に、巨大人型決戦兵器Ｊ．Ａ．の暴走を止めようとするシンジとミサトの活躍を描くエピソード。ネルフと政府の「組織対組織」騙し合いのドラマは出色の出来と言えよう。第壱話以来続いたシンジとミサトのコミュニケーションのドラマも、ここで一段落。第壱話からこの話までをシリーズの「プロローグ編」と見る事ができる。『エヴァンゲリオン』世界において重要な設定であるセカンドインパクトについて、初めて具体的な説明がされたのも、このエピソードだ。

脚本／榎戸洋司　庵野秀明
絵コンテ／杉山廣一　庵野秀明
演出／杉山廣一
演出助手／大塚雅彦
作画監督／鈴木俊二
設定補／ヲギ・ミツム
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ２　セフィロトの樹】
ゲンドウの執務室に映し出されたのは、セフィロトの樹と呼ばれる図形である。これは錬金術、神秘学、占星術等の元になった秘術「カバラ」の象徴的な図版で、世界の成り立ちを説明するものである。10個の球体と22の経で構成されており、人は努力によって精神を高める事ができ、神に近づく事ができる、という真理を示しているという。オープニングにも同じ図形が登場している。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３　報告書】
使徒と人類補完計画に関する公式資料。ネルフ総務局総務部第二課によって作成されたものだが、重要な箇所は黒く塗り潰されている。この時ゲンドウが電話で話している相手は、第八話から登場する加持リョウジだ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２８　微妙な表情】
ミサトはシンジに、進路相談の為に学校に行くのは作戦部長としての仕事の内、という意味の事を言ってしまった。おどけて言った台詞だったが、シンジが真剣に受け取ってしまったため、ミサトは「ちょっと迂闊な発言だったかな」と思ったのだ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３２　恥ずかしいから】
シンジはミサトに「恥ずかしいから」みっともない格好でトウジ達の前に出るな、と言う。まるで弟が実の姉に言う台詞の様だ。それだけ二人の距離が近づいているという事なのだが、この時点ではシンジはその事に気がついていない。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４６　第５の使徒の残骸】
第六話で倒された第５の使徒の残骸は、未だに解体作業の途中である。この作業は、この後もしばらく続く事になる。

＊＊＊
【Ｃｕｔ４９　フェラーリ３２８】
ミサトがシンジの学校に乗ってきた自動車はフェラーリ３２８。オープンエアモータリングが楽しめるＧＴＳタイプである。３２８はフェラーリの中でもスタイルが洗練された車種。フェラーリとしては比較的価格の安いものではあるが、それでも、以前に乗っていたアルピーヌ・レノーより高価。シンジの学校に行くという事で、彼女は見栄えのする自動車を選んだのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ７９　ＳＳＴＯ】
ゲンドウが乗っているのがＳＳＴＯ。SINGLE STAGE TO ORBIT の略である。成層圏まで上昇し、半周し目的地に達する。これと同じものの底部を改造して作られたのが、第六話のＥＶＡ専用耐熱光波防御兵器だ。このＣｕｔの、地表部で赤く光って見えるところは南極である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ７９　セカンドインパクト】
リツコによるセカンドインパクトについての説明。ここで第参話の中学校教師による説明が真実ではなかったことが明らかになる。彼女が説明している間ミサトが顔を背けているのにも注目。
＊＊＊
【Ｃｕｔ８０　歴史の教科書】
シンジが使っている歴史の教科書の一頁。西暦２０００年９月 13 日に南極大陸マーカム山に大質量隕石が落下し、それにより発生した海面上昇の為、世界各地で紛争が起きた事、長野県松本市に第２新東京市が造られた事等が記されている。また、この頁の注釈にはファーストインパクトが、ジャイアントインパクトと呼ばれる 40 億年前の小惑星の激突の事であるという説明もされている。ジャイアントインパクト以来の大きなインパクトであるため、セカンドインパクトと呼ばれているのだ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ８１　号外】
セカンドインパクトが起きた日の毎朝新聞の号外。当時のもので、ところどころが黄ばんでいる。日付は２０００年９月 13 日。見出しは「南極で巨大爆発」「南半球諸国壊滅か　死者・不明者五千万人以上」「原因不明　隕石落下の可能性　国連調査団、明日出発」等。ちなみに、毎朝新聞の発行所は東京都武蔵野市にある。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１０８　旧東京再開発臨海部】
かつての東京はセカンドインパクトによる海面上昇のために、その大半が海に沈んだまま。その一部を埋め立てて再開発している地域の一つ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１１１　駐機場】
Ｊ．Ａ．の完成披露が行われた国立第３試験場の駐機場。ヘリやＶＴＯＬを止めておく為の施設である。ミサト達はＶＴＯＬで来たが、ヘリで訪れた客の方が多かった。画面左にあるのは、自動車用の出入口。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１２５　極秘資料】
時田が持っていた資料。冒頭で登場したものではなく、使徒やＥＶＡについて詳しく書かれたものの様だ。不鮮明な初号機の写真には「A BERSERK EVA-01」とキャプションがつけられている。

＊＊＊
【Ｃｕｔ１３９　ゴミ箱】
ロッカールームのゴミ箱。捨てられているのはＪ．Ａ．の広報資料とデータが収められたメディア。この時代の記録メディアは長方形が基本。第八話でケンスケが撮っていたビデオカメラのメディアも長方形である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９７　ＤＥＬＥＴＥ】
モニター画面に「ジェット・アローン起動用オペレーティングシステム．Ver.2.2.1c」と表示された直後に、画面に「ＤＥＬＥＴＥ」の文字が出る。このとき、Ｊ．Ａ．のプログラムに何かが起きたのだ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２２２　ＥＶＡ専用長距離輸送機】
文字通り、ＥＶＡを空輸するための輸送機。ネルフ本部から初号機を乗せて発進し、一度国連軍の厚木基地に立ち寄り、ミサトを乗せて再び飛び立った。白い煙を排出しているのは離陸用のロケットブースター。このブースターは離陸後に切り離された。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２７８　非常用手動制御室（主）】
コンソールと手動制御装置が置かれている狭い部屋。壁から突き出ているのが手動制御装置である。この部屋に入る前にミサトが見ているのはＪ．Ａ．内の地図。高温でも大丈夫な様に透明のケースに入れられていた。
＊＊＊

第八話　アスカ、来日
EPISODE：8　ASUKA STRIKES!
●平成７年11月22日放映
＊＊＊
第八話は、弐号機とそのパイロットである惣流・アスカ・ラングレーの登場、活躍が描かれる痛快アクション編。本田雄のシャープな作画を堪能する事ができるエピソードである。また、全体がライトなテイストでまとめられており、コミカルな描写も多い。絵コンテを担当した樋口真嗣は『ガメラ大怪獣空中決戦』等で知られる特撮クリエイター。アニメでは『トップをねらえ！』の「島編」の監督等で知られる。第八話、第九話は彼の陽性の持ち味が色濃く反映されていると言えよう。
ここから、各話完結で様々な使徒との戦闘を描く第２部「アクション編」に突入する。

脚本／榎戸洋司　庵野秀明
絵コンテ／樋口真嗣
演出／鶴巻和哉
演出助手／大塚雅彦
作画監督／本田雄
設定補／前田真宏　ヲギ・ミツム
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ３　輸送用ヘリ】
正式名称はMil-55d。ＥＶＡの非常用ソケットとミサト達を空母オーヴァー・ザ・レインボウまで運んだ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３　空母オーヴァー・ザ・レインボウ】
国連海軍正規空母オーヴァー・ザ・レインボウ。米国海軍ニミッツ級８番鑑ユナイテッド・ステイツが、国連海軍に編入された際に名称を改めたもの。全長332.9m。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２３　国連軍艦隊】
オーヴァー・ザ・レインボウを旗艦とし、東西陣営の艦や戦闘機で構成されている。元来国海軍の艦が主力である。艦にはそれぞれ「オセロ」「タイタス・アンドロニカス」「シムベリン」「テンペスト」等、シェイクスピアの戯曲からとられたコードネームがつけられている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４４　ミサトのＩＤ】
写真は撮影の時に失敗してしまい、間抜けな顔に写ってしまっている。他人に見られるのが嫌だったのだろう、スリーサイズや体量等の項目は本人が塗り潰している。カードにはＮＥＲＶのマークが刻印されている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６６　テーブルの下の攻防】
テーブルの下で加持の足とミサトの足の攻防が繰り広げられている。加持の足は、より大胆にミサトの足に接触しようとし、彼女の足はそれを拒んでいる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６６　ホームドラマ】

画面には出てこないが、士官食堂にはＴＶが置かれており、そこからホームコメディの音声が聞こえてくる。内容は一組のカップルが登場し、冷たくされた男性が「どうして君はこんなに冷たいの」と女性をなじるというもの。女性は「あなたよりも犬の方がましよ」という意味の事を言う。
＊＊＊
【Ｃｕｔ７１　寝相の悪さ】
加持が「ミサトの寝相は相変わらずか」とシンジに聞いている。この言葉で加持とミサトの過去の関係の一端が明らかになり、ケンスケ、トウジ、アスカは驚いた。だが、シンジはピンとこなかった様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ８５　弐号機輸送用改造タンカー】
ＥＶＡ弐号機を輸送するために改造されたタンカー。アスカとシンジはヘリで、このタンカーまでやってきた。ブリッジの上に乗っているのがそのヘリ。Mil-2 である。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３４　加持の私物】
この時点で、すでに加持の荷物はもとめられている。荷物はトランク、スーツ、ホルスター等。トランクは核爆発にも耐えられる頑丈なもの。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３７　ドイツ語】
弐号機起動のシーンでアスカが言っているドイツ語は「LCL Fullung. Anfang der Bewegung. Anfang des Nerven anschlusses. Ausloses von links-Kleidung. Synchro-start」。意味は「ＬＣＬ満水。起動開始。神経接続開始。圧着ロック解除。シンクロスタート」。エントリープラグ内に表示される「FEHLER」は「エラー」の意味。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１６８　弐号機着艦】
艦から艦へ飛ぶ弐号機のアクションは第八話の見所。オーヴァー・ザ・レインボウに着艦した際に、海に落ちる戦闘機はソ連空軍の主力制空及び護衛戦闘機スホーイ Su-27k。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１７７　プログレッシブ・ナイフ】
弐号機に装備されたプログレッシブ・ナイフは初号機のものと大きさや性能はほぼ同じ。ただし刃が改良されており、カッターナイフ状になっている。普段は刃が収納されており、カッターナイフの様にＥＶＡが指先で刃を押し出して使用する。ただし、通常のカッターナイフとは刃先の角度が逆。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９２　エレベーター】
弐号機が踏み抜いたのは、甲板上に飛行機を上げるためのエレベーター。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２０１　海中の都市】
第６の使徒と弐号機が戦う海底に建物が建っている。これはセカンドインパクトの影響で海中に没した日本の都市。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２１５　加持の飛行機】
加持が脱出に使用したのは、ソ連海軍の空母艦載ＶＴＯＬヤコブレフ Yak-38 改。タンデム複座のフォージャーＢである。

＊＊＊
【Ｃｕｔ２４５　作戦行動予定図】
ここに国連軍太平洋艦隊の艦の正式名称が表示されている。艦の下の地図は、海中に没した日本の街の、セカンドインパクト以前の地図。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２５０　フリゲート艦】
フリゲート艦とは主に対空・対潜をフリゲート艦とは主に対空・対潜を任務とする軍艦の事。この時は退艦した他の艦の乗組員の救助にあたった。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２８５　弐号機の目】
第６の使徒の口をこじ開けた時、弐号機の目が赤く光る。これは補助光学カメラや電磁波センサーではなくＥＶＡ弐号機自身の（つまり第弐話で初号機が見せた生物的な本体の）目の光である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２９５　新横須賀港】
セカンドインパクト後に造られた港。場所は現在の小田原の辺り。第３新東京市に最も近い大きな港である。かつての横須賀は海に没している。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３０５　アダム】
加持が運んでいたトランクの中味である。第七話のＳＳＴＯの中の会話で「サンプル回収の修正予算」が話題になっていたが、そのサンプルが、このアダムの事であると思われる。この人間の胎児の様なものが何故「最初の人間アダム」と呼ばれるのか。ここだは新たな謎が提示されるだけである。
＊＊＊

ＤＩＳＣ　３
第九話　瞬間、心、重ねて
EPISODE：9　Both of You, Dance Like You Want to Win!
●平成７年11月29日放映
＊＊＊
前回と同様、絵コンテを担当した樋口真嗣の陽性の持ち味が発揮されたエピソード。第八話よりも、さらに明るく軽快。青春ドラマ仕立てになっている事もあり娯楽性は高く、それゆえ『エヴァンゲリオン』の中では異色作となっている。長谷川眞也の個性的な作画も印象的。

脚本／薩川昭夫　庵野秀明
絵コンテ／樋口真嗣
演出／水島情二
作画監督／長谷川眞也
設定補／前田真宏　ヲギ・ミツム
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１８　Guten Morgen】
ドイツ語で「おはよう」の意味。その前の「ヘロウ」はドイツなまりの英語。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２４　読書】
レイが読んでいるのは生物学関係、あるいは遺伝子関係の専門書。かなり難しい本で、彼女もその内容を完全に理解しているわけではないらしい。
＊＊＊
【Ｃｕｔ５０　ブラッドタイプ】
未確認物体が使徒かどうか判断する為の基準。波長がブルーの物体は使徒、ということである。リツコが第６の使徒を解折しているシーンのモニターにも、画面の端に「BLOOD TYPE BLUE」と表示されている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ５２　解体中の第５の使徒】
第六話で倒された第５の使徒の残骸。第七話の時点よりも、解体作業は進んでいる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ５９　モニター内の目線】
アスカが、モニター内のシンジを「言っとくけど……」と脅かすと、それに反応してモニター内のシンジが彼女の方を見てしまう。両者とも、カメラに向かって喋っているはずであるから、よく考えると、この様に視線が合うわけはない……というギャグ。同様の描写は『トップをねらえ！』でも数回ある。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６４　駿河湾】
初号機と弐号機が、第７の使徒を迎撃したのは第３新東京市の西南、駿河湾の海岸である。この辺りはセカンドインパクトの影響により海岸線が移動しており、昔の建物が水没したままになっている。初号機がパレットガンを撃つＣｕｔで、背後にある建物は海の家。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６５　電源装着トレーラー】

クレーンでＥＶＡにケーブルを装着、固定する特殊車両。電源車とコンビで使用される。今回、電源車は画面登場していない。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６８　ソニック・グレイブ】
薙刀の様なＥＶＡの武装。今回は弐号機が使用し、第７の使徒を真っ二つにした。その原理はプログレッシブ・ナイフと同じ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１１８　ミサトの公務室】
抗議文や被害報告書が山と積まれている部屋は、ネルフ内のミサトの公務室。彼女の机と椅子、来客用の椅子、システム棚しかないこざっぱりした部屋である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１２３　解体中の第５の使徒】
作業は夜も続けられている。Ｃｕｔ５２に比べると、かなり解体が進んでいる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３１　ミサトの表情】
加持が、使徒を倒す作戦と考えてくれたと知ったミサトは、少し嬉しい表情を見せる。それをリツコは見逃さなかった。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５７　格言】
一般的には「男女七歳にして席同じうせず」と言われる。元々は儒教の経書『礼記』の中にある言葉で、席はムシロの意味。古代中国では、同じムシロに座る事は夫婦を意味していた。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ２０８　男のくせに】
この話以外でも、アスカはシンジに対して「あんた、男でしょ」といった意味の言葉を何度も言う。「あんた、馬鹿」という発言も多い。彼女の人格について考える上で大事なキーワードなのかもしれない。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３１５　特訓の日々】
第九話の見どころの一つ。ＢＧＭに合わせたＣｕｔ割りとアクションが見事。楽しいシーンである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２１８　隣の部屋】
アスカが自分の寝具を持ち込んだのはミサトの部屋。ユニゾン特訓の期間中、ミサトとシンジとアスカは居間で寝起きしていた。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２２０　ジェリコの壁】
「ジェリコの壁」は、洋画「或る夜の出来事」（1934・米）からの引用。金持ちの家出娘と失業中の新聞記者が、宿の同じ部屋で一夜を過ごす事になり、毛布で仕切りを作り、それを「ジェリコの壁」と呼んだのだ。ちなみに元々の「ジェリコの壁」とは聖書に出てくる城壁の事。アスカは、自分の部屋に入ってくるなと言ったのだが、その彼女の言葉とは裏腹にシャツの胸元が露になり、まるでシンジを挑発するかの様になってしまった。
＊＊＊

【Ｃｕｔ２３５　シンジの驚き】
目の前に出現した、アラレもない姿のアスカに驚くシンジ。そして、シンジはアスカの唇に……。『エヴァンゲリオン』で、殆ど唯一の青春もの的ドキドキシーンである。『ふしぎの海のナディア』の「島編」を思い出したファンも多い事だろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２４９　エレベーターの中】
シンジがアスカの唇にドキドキしている時、ネルフでは加持が易々とミサトの唇を奪っていた。両者の対比が面白い。このシーンでミサトは「見てる」と言っているが、これはエレベーター内の監視カメラに見られているという事なのか。加持の腕の中で、エレベーターの階数表示板を見つめるミサトは何を想っているのか。いずれにせよ、意味深長なシーンである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２６４　ラウンジ】
ジオ・フロント内、天井ビルの最下階にある。窓の外に光って見えるのは、地上とネルフ本部を繋ぐルートを走る列車。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２７５　リツコの表情】
ミサトを真面目な顔で見つめるリツコ。己の気持ちに素直になれないミサトを、自分に重ねて見ているのかもしれない。このシーンは、ミサトを見るリツコの、感情の動きが面白い。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２８０　強羅絶対防衛線】
第３新東京市周辺に設定された防衛線。強羅とは、芦ノ湖の北東に実在する地名。この防衛線は、強羅の周辺のみに設定されているわけではないらしい。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２９３　62秒】
第九話の見どころの一つ。華麗かつ軽快な戦闘シーン。ドラマ中で62秒の戦闘が、実際にほぼ62秒で描かれているのも秀逸。このシーンでは、画面分割等の手法が使われ、「いかにもロボットアニメ的」な派手な演出となっている。本作でこの様な描写があるのはこのエピソードのみ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３４０　ポジトロンライフル】
弐号機が使っている火器は、第六話で一Ｃｕｔだけ登場したＥＶＡ専用ポジトロンライフル。実戦で使われるのはこれが初めて。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３０４　電話機】
ＥＶＡの非常用電話。肩パーツの背面側についている。
＊＊＊

第拾話　マグマダイバー
EPISODE：10　MAGMADIVER
●平成７年12月６日放映
＊＊＊
第八話、第九話に続くアスカの活躍編。初めてネルフが使徒に対し能動的に動き、蛹の状態の使徒を捕獲しようとする。第八話以降の第２部「アクション編」は、どんなシチュエーションで使徒と戦うかにポイントが置かれており、今回の戦闘はマグマの中。また、使徒の正体、加持の不可解な行動、ミサトとアスカの過去等、新たな謎と謎に関する情報が提示されたエピソードでもある。

脚本／薩川昭夫　庵野秀明
絵コンテ／加賀ツヨシ　庵野秀明
演出／ 加賀ツヨシ　石堂宏之
作画監督／重田智
設定補／きお誠児　ヲギ・ミツマ
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１　デパート】
デパートの名は「０９（オーナイン）」。この名は庵野監督の郷里に実在するデパートからとられている。実は第壱話の「０９システム」のネーミングも、そのデパートの名前から。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６　デパート屋上】
このシーンで背後にかかっている曲は「Lilia　～FROM YS～」の中の「FALL in STAR」。ヴォーカルはやはり三石琴乃。第九話のコンビニのシーンで流れている歌やシンジがＳＤＡＴで聞いていた曲も同アルバムからの流用。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４３　三者三様】
伊吹マヤが読んでいるのは恋愛小説。日向マコトが読んでいるのは漫画雑誌。青葉シゲルは、音楽雑誌を傍らに置いて、ギターを演奏する真似をしている。青葉はギターを弾くのが趣味。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６０　軽蔑】
アスカはシンジの事を「つまらない男」と言う。自分が言ったジョークが通じなかったので、呆れているのである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６７　バックロールエントリー】
エントリーとはスクーバダイビングで水に入る事。バックロールエントリーは、背中から水に入るスタイルの事。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１１２　零号機】
零号機は第５の使徒との戦いで大破して以来、戦闘には参加していない。だが、この段階である程度改修及び改造作業が済んでいる様だ。
＊＊＊
Ｂパート

＊＊＊
【Ｃｕｔ１４６　14式大型架橋自走車】
橋の様なクレーンを搭載した特殊車両。弐号機を火口の真上からマグマの中に降ろすために使用された。七方に伸びているラインは位置を固定する超硬ワイヤー。レーザーでマグマに穴を空け、弐号機の通路を確保した。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１４８　箱根ロープウェイ】
加持と女性が乗っているのは、箱根ロープウェイ。女性の正体は不明だが、ここでの会話で加持が、ただのネルフの一員ではない事がうかがうえる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２００　プログ・ナイフ】
Ｄ型装備の弐号機が、左足に装着していたのは、カバーのついたプログレッシブ・ナイフ。中身は第参話で初号機が使ったものと同じもの。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２１１　使徒キャッチャー】
電磁膜で目標を包み込み、捕獲する。緊急時には取っ手の部分の爆砕ボルトで、電磁膜の部分を切り離す。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３４１　傷】
ミサトの腹部の傷。アスカの過去。ここでまた、新たな謎が提示された。
＊＊＊

第拾壱話　静止した闇の中で
EPISODE：11　The Day Tokyo-3 Stood Still
●平成７年12月13日放映
＊＊＊
ネルフ本部の大停電を背景にした、ユーモラスな描写の多いエピソード。科学文明に頼りすぎた生活に対する問題意識が込められているあたりも、庵野監督作品らしい。初号機、零号機、弐号機が同時に活躍するのは、これが初めて。シンジ、レイ、アスカの凸凹トリオぶりも楽しい。

脚本／榎戸洋司　庵野秀明
絵コンテ／摩砂雪
演出／渡邊哲哉
作画監督／河口俊夫
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ３　缶コーヒー】
青葉シゲルが買った缶コーヒーは、ＵＣＣのオールドタイプがモデルになっている。庵野監督は、ＵＣＣの缶コーヒーを昔から愛飲しており、『トップをねらえ！』の１話にも同じ缶コーヒーが登場している。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４　ギターケース】
青葉が背負っているのは、エレキギターが入ったギターケース。青葉はギターを弾くのが趣味であり、いつもギターを持って歩いている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ５　コインクリーニング】
リツコの洗濯物はいつものブルーのシャツと白衣ばかり。リツコとマヤは出動前に一緒にコインクリーニングに来ていた。恐らく、二人の住居は近い場所にあるのだろう。青葉は仕事のために昨夜は住居まで寝れず、どこかに泊まり、睡眠をとった様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２７　零号機・改】
ヤシマ作戦で大破した零号機の、久々の登場。胴体等のパーツが弐号機と同じものに換えられており、ボディカラーもブルーに変更されている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４９　選挙ポスター】
煙草屋の隣に選挙ポスターの掲示板が立っている。掲示板に貼られているポスターはわずか３枚である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６３　高橋覗】
高橋覗は第３新東京市の市議選立候補者。彼のネーミングは、この話の作画を担当したスタジオジブリのプロデューサーの高橋望からとられている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ８４　使徒の数】

国連軍の軍人は、このエピソードの使徒を８番目の使徒だと言う。だが、ネルフの数え方では９番目にあたる。このギャップは国連軍側の情報不足によるものと思われる。国連軍側は、１５年前に南極に現れてセカンドインパクトを起こしたのが第１の使徒で、第壱話に登場したのが第２の使徒であると認識しているのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ８９　ＪＡＳＤＦ】
国連軍軍人手前の灰皿に「ＪＡＳＤＦ」という文字が印刷されている。この後に登場するセスナの底面にも同様の名称が記されている。これは、Japan Air Self-Defence Force の略。すなわち、日本航空自衛隊である。この時代、日本の自衛隊は陸海空の全軍が国連軍に編入されており、第六話に登場した戦略自衛隊のみが日本国の指揮下にある。
＊＊＊
【Ｃｕｔ９８　マニュアルカード】
プラスティックのケースの中に紙のカードが入っている。緊急時にはケースを二つに割って、中のカードを取り出す。
＊＊＊
【アイキャッチ】
この話の英文サブタイトルは「The Day Tokyo-3 Stood Still」。勿論これはＳＦ映画の古典「地球が静止する日」（1951・米）の英文タイトル「THE DAY THE EARTH STOOD STILL」からの引用。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ２４０　セルモーター】
このエピソードでは、ディーゼルエンジンによって発電をし、それによってＥＶＡを起動させた。このＣｕｔで回されているのは、ディーゼルの始動に使われたセルモーターのスイッチ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２６２　非常用バッテリー】
ディーゼルエンジンを使い起動した後、ＥＶＡは非常用バッテリーを使い活動した。このＣｕｔでＥＶＡの肩パーツに取りつけられたのがチューインガム型非常用バッテリー。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２６４　ノリノリのリツコ】
ミサトが不在の為、Ｅ計画責任者であるリツコがＥＶＡの作戦指揮をしている。「発進！」と叫ぶリツコのポーズは、まるでミサトの様。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２７２　縦穴】
第９の使徒が溶解液を垂らした縦穴は、第六話で第５の使徒のシールドが空けた穴である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２７６　ハード・ケース】
この時、初号機と弐号機は両肩の肩パーツに非常用バッテリーを装着しているが、弐号機のみ右肩の肩パーツにパレット・ライフルを収納したハード・ケースをつけている。このＣｕｔにおいて溶解液で溶けてしまったのが、そのハード・ケースである。ハード・ケースの一部が溶けてしまったため、ＥＶＡが落下しかかった時にパレット・ライフルが下に落ちてしまった。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３２３　非常制御用固体ロケット】

肩パーツからの噴射で、落下速度を落とす。実戦で使われたのは、これが初めて。初号機、弐号機にも同じ機能がある。
＊＊＊

第拾弐話　奇跡の価値は
EPISODE：12　She said, "Don't make others suffer for your personal hatred."
●平成７年12月20日放映
＊＊＊
衛星軌道上から落下してくる最大の使徒、万に一つの可能性に賭けた決死の作戦、明かされるセカンドインパクトの真実とミサトの過去、ダイナミックなメカアクション等、盛り沢山なエピソード。第２部「アクション編」の実質的な意味でのクライマックスである。
ゲンドウとの関係、ＥＶＡに乗る理由についての疑問も提示されており、シンジの物語としても重要な話である。

脚本／薩川昭夫　庵野秀明
絵コンテ／摩砂雪
演出／石堂宏之
作画監督／重田智
設定補／ヲギ・ミツマ
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１　西暦2000年】
ミサトの少女時代の回想という形で、セカンドインパクトの真実の一端が描かれている。これでミサトの傷跡、十字架のネックレス等の謎が解明されたわけだが、南極に現れた巨大な翼は一体？またも新たな謎が提示された。
＊＊＊
【Ｃｕｔ９　光の巨人】
一瞬だけ画面に登場する。この光の巨人が第七話でリツコが語っていた「南極で発見された最初の使徒と呼称された物体」なのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６８　ＤＪ】
カーラジオから流れてくるのはＤＪ番組。ＤＪはミサトと同じセカンドインパクト世代であり、お便りをくれたリスナーに、現在な食べ物の心配等をしないですむいい時代なんだよ、と説教している。シンジ達にとってのセカンドインパクト世代は、戦後生れの人間にとっての戦中派の様なものだ。ＤＪを演じているのは、現実にＤＪとして活躍している林原めぐみ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１０３　現在の南極】
海が赤く、塩の柱が立つ載せているのは、第八話のオーヴァー・ザ・レインボウと同様、国連軍に編入された米国の空母。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１１０　原罪】
ゲンドウはセカンドインパクト後の南極を「原罪の汚れ無き、浄化された世界」だと言う。一般に、原罪とは旧約聖書『創世記』において人間の始祖アダムが犯した罪、あるいはその結果として全ての人間が背負う事になった罪の事。ゲンドウはどんなつもりでこの言葉を口にしたのか。また、このシーンの会話で、冬月とゲンドウの間でセカンドインパクト、人間、科学等についての考え方が異なっているらしい事がうかがえる。

＊＊＊
【Ｃｕｔ１１５　サーチ衛星】
衛星軌道上に位置する監視衛星。本体はほぼ長方形の鏡面であり、その四方に太陽電池とライトがついている。鏡面部分を使用し、対象物を探査する。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５２　手で】
「人の手で」というのは、庵野監督が好んで使う台詞の一つ。『ふしぎの海のナディア』の21話、『エヴァンゲリオン』の第七話、第拾壱話にも同様の台詞がある。そのルーツが分かった人は、かなりのアニメ通。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５２　天井ビル最下階】
ミサトがシンジ達に作戦について説明している場所は、ジオフロント内部の天井ビル最下階。足下にネルフ本部とサブターミナルが見える。第弐話でミサトとシンジが、士官とシンジの住居について話をしたのと同じ場所である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１６１　奇跡は起こしてこそ価値がある】
これも庵野監督作品でお馴染みの台詞。同様の台詞は『トップをねらえ！」の６話、『ふしぎの海のナディア』の21話、『エヴァンゲリオン』の第七話にもある。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１７３　肉】
レイは肉を食べるのは嫌だと言う。彼女が自分の嗜好について語るのは珍しい事である。一体その理由は何なのだろう。『ふしぎの海のナディア』の主人公であるナディアも、菜食主義者であった。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３０６　ラーメン】
レイが注文したのはニンニクラーメンのチャーシュー抜き。この台詞は林原めぐみのアドリブで、台本ではレイが注文するのはノリラーメンであった。本作では珍しい純粋な声優のアドリブである。
＊＊＊

ＤＩＳＣ　４
第拾参話　使徒、侵入
EPISODE：13　LILLIPUTIAN HITCHER
●平成７年12月27日放映
＊＊＊
第２部「アクション編」の末尾を飾るのは、シリーズ中で最もＳＦ色が強いエピソード。コンピュータ・ウイルス的な性格を持つ使徒と、その使徒から、本部の頭脳スーパーコンピュータＭＡＧＩを守ろうとする、ネルフスタッフとの攻防を描く。「姿の見えない敵」との戦いという、決して映像作品向けではないアイデアを、テンションの高いドラマに仕上げた脚本と演出の手腕は見事。
脚本は磯光雄、薩川昭夫、庵野秀明の三人の連名。もともと、このエピソードのアイデア、プロットは、アニメーターでもある磯光雄が提出したものであり、彼の異才ぶりが発揮されたストーリーである。
また、磯光雄はこのエピソードに限らず、本作の根幹に関わる設定に関して、多くアイデアを出している。作画は『BLUE SEED』『機動警察パトレイバー２ the Movie』等で知られるプロダクションI.G.が担当。
制作現場では放映話数とは別に、制作進行順に制作話数という話数でエピソードが数えられる事がある。このエピソードは制作話数では第拾四話にあたり、放映第拾四話が制作第拾参話にあたる。

脚本／磯光雄　薩川昭夫　庵野秀明
絵コンテ・演出／岡村天斎
作画監督／黄瀬和哉
設定補／磯光雄　黄瀬和哉
演出助手／大塚雅彦
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９　モニターカメラ】
リツコは、プライバシー保護のために映像モニターは切ってあると言っているが、このＣｕｔの終わりにモニターカメラのランプがつく。このランプは、赤外線カメラの様な性能の補助カメラである。リツコは、アスカ達には内緒で、処理画像でモニターしていたのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２２　模擬体】
エントリープラグが挿入されたのが、実験のために作られた模擬体。ＥＶＡとほぼ同様の生体部品で作られている。頭と左手と下半身は無く、動くのは右手のみ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２２　PRIBNOW BOX】
模擬体が入れられているのが、プリブノーボックスと呼ばれる実験用の水槽。ネーミングは生物学の用語「プリブナウ配列」からとられている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３４　対立モード】
スーパーコンピュータＭＡＧＩは、MELCHIOR・１、BALTHASAR・２、CASPER・３の三台三系統のコンピュータで構成されており、この三台によって様々な計画、問題、作戦等が検討される。このＣｕｔ３４で、ＭＡＧＩは対立モードに入った。対立モードとは、三台のコンピュータが何かの問題について審議する体制の事。ちなみにＭＡＧＩのネーミングは『新約聖書』で、イエス誕生を予言し

た東方の三賢者から。MELCHIOR、BALTHASAR、CASPERの名前も、それぞれの賢者の名前からとられている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４６　零号機とコンタクト】
レイの乗ったシミュレーションプラグのデータを、模擬体を経由してケイジ内の零号機に送ると、零号機はＡ．Ｔ．フィールドを発生させた。実はこの実験は、第拾四話でも話題になっているダミーシステムの基礎準備段階でもある。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６２　POLYSOME】
ポリゾームと呼ばれているのは、水中作業用ロボット。後の水平テーブルを挟んでの会議シーンで、モニターに映し出されていたプリブノーボックス内の映像も、ポリゾームのカメラが撮ったものである。ポリゾームのネーミングも生物学の用語から。
＊＊＊
【Ｃｕｔ９０　Ａ．Ｔ．フィールド】
お馴染みの六角形の光は、同時多発的に出現している。これは、使徒が単体でなく、複数の個体が次々にＡ．Ｔ．フィールドを張っているため。
＊＊＊
【Ｃｕｔ９８　セントラルドグマ】
ジオフロント内に建つピラミッド型の建造物は、ネルフ本部のごく一部にすぎない。ピラミッド型の建造物に隣接する正方形の湖の、真下方向に伸びる形で、約七kmの深さまで大深度施設が造られている。大深度施設の大半がセントラルドグマと呼ばれる区域であり、シグマユニットはその一部である。このエピソードでは、最下方の区域を使徒の侵入から守るために、セントラルドグマ中の、シグマユニットより下の区域を物理的に完全閉鎖したのだ。
ちなみに、セントラルドグマのネーミングも生物学から。遺伝情報はＤＮＡ→ＲＮＡ→蛋白質と伝達されていく。この情報の一方向の流れをセントラルドグマと言う。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１２０　真空ポンプ】
館内アナウンスが「真空ポンプ作動まで、あと30秒です」と言っているが、真空ポンプとは、真空を得るために気体吸引、排出する装置。ここでは空気を介して、使徒による感染が広がるのを防ぐためにセントラルドグマ内を真空にしたのだ。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１４１　モニターの使徒】
ここでモニターに映っているのが、第11の使徒。この使徒は、物理的な実体を持たず、純粋に情報としてのみ存在する使徒とも考えられる。生物、鉱物、電子情報など、その性質に関わりなく、隣り合う情報パターンを自己と同一のものに書き換えていく能力を持っているのだろう。模擬体やセントラルドグマの一部が赤く光って見えるのは、この使徒によって情報が書き換えられた部分である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１４７　真似エントリーを展開】
青葉の台詞。偽のプログラムを使徒に対し展開し、それで使徒の侵入を阻もうとしているという意味。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１６５　Ｉ／Ｏシステム】

INPUT／OUTPUT、つまり、コンピュータの入出力システムの事。Ｉ／Ｏシステムを切って、情報を遮断する事でＭＡＧＩへの使徒の侵入を防ごうとしていたのだ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２０３　ロジックモードを変更】
ＭＡＧＩの思考速度を最大最大限遅くする事によって、使徒に乗っ取られるまでの時間を稼いだのである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２０９　マイクロマシン】
マイクロマシンとは、１立方㎤のスペースに収まる自立的な走行機械の総称。ここで、リツコは第11の使徒をマイクロマシンと言っているが、マイクロマシンとはあくまで機械であり、第11の使徒はハードとしての性格も持つ、一種のプログラムであると考えられる。リツコは、使徒の能力、性質から「一種のマイクロマシンの様なものである」と言っているのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２２３　進化の終着地点は自滅】
生物が、特定の環境に対して適応するために進化し続けた場合、やがて、他の環境に対応できなくなってしまうという意味。例えば、恐竜は中生代の環境に適応した生物だったが、その後の環境変化に適応できず絶滅してしまった。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２４２　リツコの笑み】
開発者がCASPER・３内部に残したメモを見て、リツコは微笑む。それは開発者の人間臭さに触れたためだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２４２　intのＣ】
CASPER・３の内部で、伊吹は「これなんてintのＣよ」とハシャいでいるが、intとはinterruptの略。すなわち「割り込み処理」。ＣＰＵが実行している処理を、一時中断して別の処理を行う事である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２５０　第七世代の有機コンピュータ】
人間の脳は情報処理に関して、現在のコンピュータよりも遥かに高い能力を持つ。第七世代の有機コンピュータとは、人間の脳の生物学的構造を模倣したコンピュータである。CASPER・３の中に、人間の脳髄の様なものが入っているが、勿論、人間の脳がそのまま使われているわけではない。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２５１　ＥＶＡの操縦】
「人格移植ＯＳ」はＥＶＡの操縦にも使われている技術だとミサトは語ってる。何気ない台詞だが、これは重要な事かもしれない。
＊＊＊

第拾四話　ゼーレ、魂の座
EPISODE：14　WEAVING A STORY
●平成８年１月３日放映
＊＊＊
東京地方では１月３日の午前８時というイレギュラーな時間で本放送が行われるという事もあり、この第拾四話は、総集編的な意味合いを持つエピソードとして作られた。「紡がれる物語」という意味の英文タイトルも、この話が総集編的なエピソードである事を示している。
人類補完委員会と碇ゲンドウが、今までの使徒との戦いを振り返るという形のＡパートは勿論、新しい物語が展開するＢパートも、新しく作画するＣｕｔは最小限に抑えられており、これまでのの話数の撮影素材の再利用で作られている。
Ａパートは全くＢＧＭを使わず、台詞の数も極端に少ない。その「音」の少なさと極太明朝体のテロップの多用が、息詰まる様な緊張感を作り出している。Ａパートの最後にサブタイトルを出す構成も効果的。Ｂパート最初、レイのインナースペースのシーンは、映像のコラージュ的な構成で、シリーズ全話の中でも印象的なシーンの一つとなっている。撮影素材再利用の巧みさからＢパートを完全新作と思ったファンも多かった事だろう。

脚本・絵コンテ／庵野秀明
演出／大塚雅彦　安藤健
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３１Ａ　第３の使徒　サキエル】
第拾四話では、それまで本編で語られなかった第拾弐話までの使徒の名前と、作戦名が明らかにされている。本作に登場する使徒の名前は、それぞれ「聖書」に登場する天使の名と同じであり、その天使が担う分野と、本作の使徒の個性、登場のシチュエーション等は、何故か一致している。第壱話で海中から登場した第３の使徒の名はサキエル。「水」の天使サキエルと同じ名前である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３１Ｂ　山間のサキエル】
既存の映像をつなぎ合わせて、１エピソードを作る事自体はＴＶアニメではさほど珍しい事ではない。大抵の場合その作業はフィルムのデュープで行われるが、この第拾四話では大半のＣｕｔを再撮影している。このＣｕｔ１３１Ｂは第壱話の印象的な場面の再利用であるが、第壱話では画面左側にいた国連軍の戦闘ヘリが、いなくなっている。これは演出意図によるもの。この様な事が可能なのも、このエピソードが再撮影によって作られているため。零号機の暴走の様にセル画を塗り直し、撮影しているＣｕｔもある。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９２　第４の使徒　シャムシエル】
第参話に登場した第４の使徒の名は、「昼」の天使シャムシエルと同じ。第３の使徒サキエルが夜間に第３新東京市を襲ったのに対し、第４の使徒は昼間に第３新東京市に現れた。天使シャムシエルは、楽園のリーダーの一人。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２２８　第５の使徒　ラミエル】
第伍話、第六話に登場した第５の使徒の名は、「雷」の天使ラミエルと同じ。ラミエルは、七人の大天使の一人、ラミエルの別名で「真の幻影を支配する」存在と言われている。

＊＊＊
【Ｃｕｔ２６１　第６の使徒　ガギエル】
第八話で、弐号機と海底で戦った第６の使徒の名は、「魚」の天使ガギエルと同じ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２９１　君の国】
「この遭遇戦で国連軍は全艦艇の１／３を失った」と言っているのは委員Ａ。この後、彼は「失ったのは君の国の船だろう」と突っ込まれているが、委員Ａは米国の人間という設定。この会議では、ゲンドウから見て右から順に、委員Ｃ、委員Ａ、キール議長、委員Ｂ、委員Ｄと並んでいる。委員Ｂは仏国、委員Ｃは英国、委員Ｄは独国の人間。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２９２　第７の使徒　イスラフェル】
第九話で初号機と弐号機に倒された第７の使徒の名は、「音楽」の天使イスラフェルと同じ。イスラフェルは最後の審判を司る天使の一人で、最後の審判の日にラッパを吹くと言われている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３１２　第８の使徒　サンダルフォン】
浅間山火口で発見された第８の使徒の名は、「胎児」の天使サンダルフォンと同じ。天使サンダルフォンは、天の書記長大天使メタトロンの双子の弟。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３３５　第９の使徒　マトリエル】
ネルフ本部の真上から溶解液を垂らした第９の使徒の名は、「雨」の天使マトリエルと同じ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３５１　第10の使徒　サハクィエル】
第拾弐話に登場し、衛星軌道上から落下してきた第10の使徒の名は、「空」の天使サハクィエルと同じ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３７５　死海文書】
「死海文書」とは、1947年に死海西岸の洞窟から発見された古文書。内容は「旧約聖書」とその「外典」、及び聖書以外の宗教文献。紀元前一～二世紀頃、つまり、クリストの生きていた時代に残されたものと言われている。今世紀最大の発見と言われながら、その第45年にも渡ってその全面公開が遅延され続けていた。また、キリスト教を根本から揺るがす内容が書かれているため、故意に発表されていない文書があるという説もある。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３７９　ゼーレ】
ゼーレとは、人類補完委員会の別称なのか、あるいはその上部組織なのか、それとも、少なくとも、この話数では不明。ちなみに独語でゼーレとは「魂」の意味。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１　レイの精神世界】
レイのモノローグと、回想の映像で、彼女のインナースペースが描かれる。『新世紀エヴァンゲリオン』にとって、重要なテーマの一つである「人の心」について、真正面から描かれた初めてのシーンである。また、綾波レイがどの様に「世界」を捉えているかを、このシーンから読みとる事ができるか

もしれない。「血を流さない女」とは誰の事なのか。あるいは、何故、彼女はエントリープラグを「魂の座」と呼ぶのか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６９　潔癖症】
リツコは「潔癖症はね、辛いわよ。人の間で生きていくのが。汚れた、と感じた時、分かるわ。それが」とマヤに語る。感情が込められた、この言葉。恐らく、彼女は自分の経験をもとに、マヤに語っているのであろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ７５　ママのおっぱい】
アスカは零号機の中のシンジに対して「どう、シンちゃん、ママのおっぱいは、それともお腹の中かなぁ？」と言う。ＥＶＡが「母」、血の匂いがするエントリープラグが「子宮」、アンビリカルケーブルが「臍の緒」のイメージを持つならば、彼女のこの台詞はテーマに関して饒舌に語っている事になる。勿論、アスカは深い考えがあってこの台詞を言っているわけではないが。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１２９　ロンギヌスの槍】
零号機が持っているのがゲンドウ達の言うロンギヌスの槍。第拾弐話で南極から空母で運び出した棒状のものが、これである。聖書におけるロンギヌスの槍とは、十字架にかけられたクリストを貫いた槍の事である。
＊＊＊

第拾伍話　嘘と沈黙
EPISODE：15　Those women longed for the touch of others' lips, and thus invited their kisses.
●平成８年１月10日放映
＊＊＊
これからシリーズは、よりドラマを濃密に描写し、テーマを強く打ち出す第３部に突入する。その一本目である第拾伍話は、ミサトと加持、シンジとゲンドウ、アスカとシンジ等の人間関係にスポットが当てられ、その一方で、主人公達が所属するネルフが、実は謎めいた組織である事が明らかになっていくという構成。
メカアクションが全く無いエピソードであるが、充分に見応えのある仕上がり。特にＢパートの、夜道のミサトと加持のシーンに関しては、絵コンテを担当した甚目喜一の仕事と三石琴乃の演技が素晴らしい。

脚本／薩川昭夫　庵野秀明
絵コンテ／甚目喜一
演出／羽生尚靖
演出助手／大塚雅彦
作画監督／鈴木俊二
作画監督補／中山勝一　古川尚哉
設定補／磯光雄　本田雄
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ２　第２、第３芦ノ湖】
第２芦ノ湖は、第九話「瞬間、心、重ねて」ラストで第７の使徒イスラフェルの爆発によって出来た窪みに、第３芦ノ湖は、第拾弐話「奇跡の価値は」で第10の使徒サハクィエルの爆発によって出来た窪みに水が流れ込んで出来たもの。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１８　女】
ここで加持と話をしているのは、日本国政府内務省の調査員。老婆の様に見えるが、それは変装であり、実際にはもっと若い女性なのである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１８　マルドゥック機関】
このエピソードで、ＥＶＡ操縦者選出のために設けられた事になっているマルドゥック機関が、ほとんど実体を持たぬ組織であるらしい事が判明する。ちなみに、マルドゥック機関のネーミングは、50の名前を持つと言われるバビロニアの神の名から。マルドゥックの神は50の名前を持ち、『エヴァンゲリオン』のマルドゥック機関は108の名を使っていたというわけだ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ７８　シンジの部屋】
シンジが寝ているのは、物置として使われていた部屋。かつてシンジが寝起きしていた部屋は、アスカにとられてしまったので、シンジは物置を自分の部屋として使っている。照明が貧弱な電球であるのもそのため。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１０７　「てんとう虫のサンバ」】

披露宴の定番ソング。これは既成の録音の流用ではなく、アフレコ時に収録されたもの。歌っているのは岩男潤子、長沢美樹、宮村優子、緒方恵美の四人。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１１５　ネクタイ】
加持のネクタイを直してやるミサト。「（二人が）一緒に暮らしてた時（彼女は）こういう事はしなかったような気がする」とは、絵コンテに書かれた甚目喜一のコメント。加持の「こりゃ、どうも……」という台詞には、「葛城がこんな事するとはね」という驚きと感慨が感じられる。彼女が、こんな風に他人の世話を焼く様になったのも、ヒールを履く様になったのと同様、年月の流れのためなのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１１８　墓地】
見渡す限り続く墓標。セカンドインパクト時に数多くの人が命を落とした。これは、その犠牲者のために作られた墓地である。シンジの母が亡くなっている事が、ここで初めて明らかになる。ゲンドウの人間性が感じられる、数少ないシーンの一つでもある。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１４２　チェロの曲】
シンジが弾いているのは、バッハの「無伴奏チェロ組曲」。これは、このシーンで使うために、『エヴァンゲリオン』のＢＧＭの一つとして新たに演奏、収録されたもの。Ｍナンバーは Ｆ－３。アルバム「NEON GENESIS EVANGELION Ⅱ」には「CHILDHOOD MEMORIES, SHUT AWAY」のタイトルで収録されている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１４４　ペンペンの部屋】
冷蔵庫内部のペンペンの部屋。画面左がＴＶ。ペンペンが寝ているのはウォーターベッド。スタンドの脇にあるのはＴＶのリモコン。リモコンはペンギンでも使う事ができる特別製だ。ちなみにペンペンの部屋の上、冷蔵庫の上半分には秘密の部屋があるらしい。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５５　ＢＡＲ】
ミサト、加持、リツコが飲んでいるＢＡＲのある場所は、第３新東京市内ではない。現在の元箱根辺りにあるという設定。ガラス越しに見える湖が芦ノ湖で、その向こう側に見えるビル群が第３新東京市だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１６８　猫の小物】
加持がリツコに渡したのは猫のペンダント。猫の小物を集めるのがリツコの趣味である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１７１　ホメオスタシスとトランジスタシス】
ホメオスタシスとは生物学の用語で、生物が環境の様々な変化に対応し、形態的状態・生理的状態を安定な範囲内に保ち、生存を維持する性を指す。アメリカの生理学者キャノン（Walter Bradford Canon：1871-1945）が、生命の一般的原理として提唱した。それと対になるトランジスタシスという概念と合わせて、「その矛盾する二つの性質を共有しているのが生物である」とする考えは本作独自のもの。同じ会話の中で加持は「男と女だな」と言っているが、それは、男女の間にも、現在の関係を維持しようとする力と変えようとする力があるという事なのだろう。

＊＊＊
【Ｃｕｔ２５５　第深度地下施設中央部】
巨大な試験管の中い入れられたレイ。その上部にある脳髄を思わせる形状に入り組んだパイプ類。この部屋は何なのか、ゲンドウは何をしているのか。ここでは謎が提示されるのみ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２８１　アダム】
これも新たな謎である。加持の言う通り、これがセカンドインパクトを引き起こしたという第１の使徒アダムなのだろうか。そして、第八話のラストシーンで登場した、人間の胎児の様なものと同じものなのだろうか。胸に突き立てられているのは、第拾四話にも登場したロンギヌスの槍である。
＊＊＊

第拾六話　死に至る病、そして
EPISODE：16　Splitting of the Breast
●平成８年１月17日放映
＊＊＊
「人の心」は本作の、シリーズ通じてのテーマであり、それは第３部において特に色濃く作品に反映されている。この第拾六話は虚数空間に相手を取り込む能力を持つ第12の使徒との戦いと、虚数空間に閉じ込められたシンジのインナースペースでの葛藤を描く。ＳＦ的な設定と、「人の心」の深淵を描く物語という、かけ離れた二つの魅力を併せ持つ『エヴァンゲリオン』ならではエピソード。
白眉とも言えるのはＢパート後半のシンジのインナースペースのシーン。他に誰も乗っていない夕暮れの列車の中というシークエンス、黒い画面に白い「線」で表現されるキャラクター、インサートされる様々な映像等、実験的とも言える手法を使い、鮮烈にシンジの心の世界を描写している。また、このエピソードではシンジが出られなくなるエントリープラグから「母の胎内」のイメージを、初号機が血まみれになり使徒内部より脱出するシーンから「出産」のイメージを感じとる事ができる。極めて象徴性の強いエピソードでもある。

脚本／山口宏　庵野秀明
絵コンテ・演出／鶴巻和哉
作画監督／長谷川眞也
設定補／鶴巻和哉
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１０　内罰的】
心理学において、上手くいかない事が生じた場合に、それを自分の責任と考えて、自分を責める傾向がある事を内罰的と言う。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１４　ミサトの電話】
鳴っている電話があるのは、ミサトの部屋。ミサトは、シンジやアスカと共用のものと別に自分専用の電話を持っている。
＊＊＊
【サブタイトル】
このサブタイトルは、実存主義の祖であるデンマークの哲学者セーレン・オ―ビュイ・キルケゴール（Soren Aabye Kierkegaard：1813-1855）の代表作『死に至る病』（Sygdommen til Doden, 1849）からの引用である。「死に至る病」とは「絶望」の事であり、この著作の緒論でキルケゴールは、クリスト教者にとっては「死でさえも『死に至る病』ではない。いわんや地上的な苦悩すなわち苦痛・煩悶・悲哀・痛恨と呼ばれるものどれもそれではない」と語る。「何か」について絶望する事は決して本来的な絶望ではなく、「自己」に絶望する事、絶望して自己自身から抜け出そうとする事があらゆる絶望の定式であるという。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６６　310ミリ狙撃銃】
この戦闘では、３機のＥＶＡがそれぞれ違った武装で出撃している。このＣｕｔで零号機が持っているのは310ミリ狙撃銃。
＊＊＊

【Ｃｕｔ６８　スマッシュ・ホーク】
弐号機が手にしているのは、スマッシュ・ホーク。プログレッシブ・ナイフと同様に高揺動粒子で形成された刃が、接触する物質を分子レベルで切断する。
＊＊＊
【Ｃｕｔ９１　予備のコンセント】
ＥＶＡに電力を供給するアンビリカルケーブルのコンセントは、第３新東京市のあちこちに予備が設置されている。ＥＶＡは、ケーブルの長さが足りなくなった場合には、この様に手近なケーブルを付け替える事ができる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ９８　初号機の銃】
初号機が持つ拳銃に似た銃器に関しては、本編中では特に名称は設定されていない。フルメタルジャケット弾を撃ち出す。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５３　レイの目線】
シンジの事を悪く言うアスカに対し、レイは顔を覗き込み、「あなたは？人に褒められるためにＥＶＡに乗ってるの？」と尋ねる。レイは、他人との接点を最小限に留めようとしている少女である。本編中で、これ程積極的に他人に対して発言をしたのは初めて。彼女が、アスカの顔を見つめて話をしている点にも注目したい。『エヴァンゲリオン』においては、独特の演出法がとられており、人物が互いの顔を見ないで会話をする場合が圧倒的に多い。だからこそ、彼女がアスカの顔を真っ直ぐに見つめて話しかけたのには、何らかの演出的意図があると考えるべきだろう。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【アイキャッチ】
この話の英文サブタイトル「Splitting of the Breast」は「乳房の分裂」という意味の精神分析用語から。「乳房の分裂」とは、幼児が乳房に抱いているイメージを、「良い乳房」「悪い乳房」の二つに分割してしまう心理的過程の事。これにより、幼児は不安、不快、苦痛、罪悪感、恥等の情動や欲動を意識から追い払い、無意識化しようとする。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１６５　ストリングス】
リツコの背後に置かれたホワイトボードにはグラフ等と共に「ストリングスが存在し、動き回る空間」「ストリングスが動く次元」「マクロな宇宙」等の文が書かれている。ストリング（string）とは紐の事。リツコは素粒子物理学における「超弦理論」を使って、第 12 の使徒について考えているのだろう。「超弦理論」は、重力までを含めた四つの力の統一理論として提唱された。これまでの物理学では、物質の基本粒子を点粒子であると考えるのが大前提だったが、この理論では極小サイズの紐が物質の究極であると考えられる。「超」とは、超対称の意味。「超弦理論」では、宇宙は 10 次元で構成されているという。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１６６　ディラックの海】
英国の物理学者 P.A.M.ディラックは、電子についての相対論的な波動方程式を解き、電子とは電荷の符合だけが異なる粒子、負のエネルギーを持った陽電子の存在を予言した。ディラックは、それまで何も無いと思われていた真空に、実は負エネルギーが満ち満ちているとしたのだ。その状態を指して「ディラックの海」と呼称する。リツコは、第 12 の使徒の内部が「ディラックの海」につながってい

ると言う。この場合の「ディラックの海」とは、前述の一般的な意味とはややニュアンスが異なり、異次元的な負のエネルギー世界といった意味なのであろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９９　精神世界・Ｉ】
このシーンは第12の使徒に捕らわれたシンジの、インナースペースが舞台。ここでは、現在と同じ姿をした「シンジＡ」と子供の姿をした「シンジＢ」の会話の形式で、彼の心の中の様々な葛藤が描かれる。何でも自分が悪いと思い込みたがる事。「嫌な事」に目をそむけたいと思う事。楽しい事だけを紡いでは生きてはいけないという事。それらについて話すシンジＡも、シンジＢも、どちらもシンジ自身であり、ここで問題にされている事も、彼が普段から分かってはいるが、考えないようにしている「嫌な事」なのだろう。目をそむけていた「嫌な事」を直視しなくてはならない事が、シンジにとっての「絶望」なのだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２０１　白い線】
このシーンでは画面に現れる白い線で、登場人物を示すという演出方法がとられている。シンジＡは縦の線で、シンジＢは横の線として表現されている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２４１　精神世界・Ⅱ】
後半のインナースペースのシーンでは、シンジと父の関係、母親の碇ユイが命を落とした事件の思い出、シンジの母への想い等が交錯する。ここで初めて明らかになる事実も多い。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２４７　「結晶遺伝子」論】
新聞記事の見出しに「結晶遺伝子」論という単語がある。これは本作品中のオリジナルの理論である。粘土または、結晶が最も原始的な生命活動の原理であるという考えを、連想させる理論である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２４７　ゲノム生物学】
ゲノムとは、一つの生命が持っているＤＮＡの総体を呼称する用語。ただし「ゲノム生物学」自体は、本作中のオリジナルの理論。
＊＊＊

ＤＩＳＣ　５
第拾七話　四人目の適格者
EPISODE：17　FOURTH CHILDREN
●平成８年１月24日放映
＊＊＊
第拾七話から第拾九話までの三話は「フォースチルドレン三部作」と呼ばれる連作である。この連作は、シリーズ中盤のクライマックスであり、シンジのドラマとしても重要な意味を持つ。
その一本目である第拾七話は、日常描写中心のエピソード。トウジがＥＶＡの四人目のパイロットに選ばれ、それについて決意するまでを描くのがメインプロットだが、それと同時にシンジが人間的に成長した事、レイの心の揺れ、ヒカリの恋心等も描かれる。ドラマ的にもアクション的にも激しいものになる第拾八話、第拾九話の前の「嵐の前の静けさ」的な意味のエピソードである。

脚本／樋口真嗣　庵野秀明
絵コンテ／オグロアキラ
演出／大原実
作画監督／花畑まう
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９　第２支部】
ここでディスプレイに映っているのが、静止衛星から送られてきた、ネルフ第２支部消滅の映像。第２支部は米国のネバダ沙漠にあった。ネルフ第１支部は米国某所に、第３支部は独国某所にある。
日本にあるネルフ本部でＥＶＡ零号機と初号機が、第１支部で３号機が、第２支部で４号機が、第３支部で弐号機が建造されていたというわけだ。また、他の支部でもＥＶＡの建造は進んでいる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２１　$S^2$機関】
$S^2$機関とは、使徒体内の機関区と思われるもの。初号機が倒した第４の使徒から採集した$S^2$機関を、第３支部で修復し、第２支部でＥＶＡ４号機に搭載しようとしていたのだ。「$S^2$」は、super solenoidの略。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３２　魂のデジタル化】
リツコは「魂のデジタル化はできない」と言う。本作の世界では「人の心」が、概念としてだけではなく、物理的にも存在するという事なのか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３８　可能な子供】
「コアの準備が可能な子供がいます」とリツコは言う。誰かがＥＶＡに搭乗するためには専用の「コア」が必要という事なのだろう。その「コア」とは、使徒の身体についているものと同種のものなのだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４１　冷たい目線】
ゲンドウを見つめるリツコの冷たい目線。彼女の心にあるのは、憎しみか怒りか、それとも嫉妬か。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６１　ペンダント】

机の右上にある丸い小物は、第拾伍話で、友人の結婚式の帰りに加持がバーで彼女に渡した。おみやげのペンダントである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ８２　メール】
レイの部屋のドアには、沢山の郵便物が突っ込まれたままになっている。彼女は自分のところに来た手紙にも、ほとんど関心がない様だ。「アナクロファンのための本『ＣＤファン』」は、現在のアナログレコードの専門誌の様なものだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ９４　信念】
女の部屋の片づけをするなど、男のする事ではない。そんな事をするのは自分の信念に反するとトウジは言う。トウジは、ある程度、自分で意識的に「男らしい男」をやっているのだろう。たとえミサトに嫌われても「男らしい男」を貫こうとする彼を、シンジは笑顔で見つめる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１０７　赤面】
シンジの優しさに、顔を赤くするレイ。シリーズ前半には、殆ど感情を見せなかった彼女だが、ここ数話、人間的な反応が増えている。彼女の内で何かが変わり始めているという事か。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１１６　リニアトレイン】
ゲンドウと冬月が乗っているのは、ネルフ専用のリニアトレイン。第３新東京市の地上の駅と、ネルフ本部を繋いでいる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５０　男ですよ】
シンジは今まで、ミサトやアスカに「あんた、男でしょ！」「それでも、男なの」等と散々言われてきた。彼自身としても、そう言われて、特に反論する事はなかった。彼は男らしくなりたいとも、男である事を主張したいとも思わない少年だった。そんな彼が、前回では「戦いは、男の仕事！」と血気にはやり、このエピソードでは加持に対して、スラリと「僕、男ですよ」と言った。トウジが言う様に、自分に自信が持てる様になった為なのか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５３　ベンチ】
加持とシンジが座っているベンチがあるのも、ジオフロントの内部。山の向こうに光って見えるのがリニアトレインの路線。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５４　加持との会話】
シンジと加持は「楽しい事」と「辛い事」について話をする。「楽しい事は見つけたのかい」という加持の問いかけに対して、シンジは伝えない。それは何故なのか。加持は、シンジの痛いところを突いてしまったのか。
第拾六話の内的宇宙のシーンでも、シンジは「楽しい事」と「辛い事」について葛藤している。内的宇宙で、少年の姿をしたシンジは「楽しい事だけを、数珠の様に紡いで、生きていられるはずがないんだよ」と言い、それに対してシンジは「……楽しい事を見つけたんだ。楽しい事を見つけて、そればっかりやってて、何が悪いんだよぉ」と応えた。第拾七話のシンジと加持の会話の内容は、第六話の内的宇宙のシーンでの葛藤の延長線上にあるのだろうか。

＊＊＊
【Ｃｕｔ１７２　女の声】
「鈴原、トウジ君ね」という女性の声は、赤木リツコのもの。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１８２　ごまかし】
シンジが３号機の事を知らないと悟ったケンスケ。「言わないって事は知らなくっていい事なんだろう」と言って、シンジの不安を取り除こうとする。対人関係に長けた、彼らしい気の遣い方である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２３８　巨人機】
ＥＶＡ３号機を輸送しているのは、第七話や第九話に登場したのと同じ、ＥＶＡ専用長距離輸送機。十字架に磔にされた姿が不安感を醸し出す。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２４３　連動神経】
トウジはいつもジャージを着ているが、特にスポーツが得意わけではない。むしろ、スポーツ音痴という設定がある。勿論、バスケット部に入っているという様な設定はない。
＊＊＊

第拾八話　命の選択を
EPISODE：18　AMBIVALENCE
●平成８年１月31日放映
＊＊＊
「フォースチルドレン三部作」の二本目。Ａパートではシンジ、アスカ、レイ、トウジ、ケンスケ、ヒカリの、少年達の心の交錯を描き、Ｂパートでは使徒に３号機が乗っ取られた事によって起こる惨劇を描く。夕焼けに赤く染まる山間部における凄惨と緊張感を強調した３号機との戦闘は、シリーズの戦闘シーンの中でも屈指の出来。ダイナミックな演出と作画も素晴らしい。

脚本／樋口真嗣　庵野秀明
絵コンテ・演出／岡村天斎
演出助手／大塚雅彦　安藤健
作画監督／黄瀬和哉
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１　オペレーターの声】
このエピソードには英語によるオペレーターの声が入るが、これは、Michael House、George A. Arriola、Hiromi Arriola の三人によるもの。Michael House はＧＡＩＮＡＸの社員で、翻訳の仕事を担当。George A. Arriola と Hiromi Arriola は、彼の友人なのだそうだ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６１　老教師】
第拾七話、第拾八話の老教師は第参話に登場したのと同一人物。彼は授業中によく脱線して、セカンドインパクトの時の思い出話を始めてしまうのだが、ここでも、第参話と全く同じ話をしている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６３　体育館裏】
トウジが思い出すのも、第参話の事である。あの時は、ＥＶＡに乗り、その為に妹に怪我をさせたシンジを、彼は殴ってしまった。今度は自分がＥＶＡに乗る事になる。しかし、やるしかない。そんな事を考えているのかもしれない。
＊＊＊
【Ｃｕｔ７５　アスカのカバン】
アスカの学生カバンについているのは、純和風のお守りとマスコット。マスコットは某有名オバケの弟によく似ている。アスカの日本の生活への順応の早さはかなりのもの。
＊＊＊
【Ｃｕｔ８５　トレンディドラマ】
アスカが見ているＴＶ番組は、トレンディドラマ。実は、第拾伍話で彼女が見ていたのと同じ番組である。第拾伍話のドラマでは男性が女性に復縁を迫っていたが、今回のドラマでは、情事の後に女が、ヨリを戻したのを後悔している。第拾伍話と第拾八話の間に関係が元に戻ったのだろう。このドラマ中の女性の気持ちが、ミサトの加持に関する気持ちとシンクロしているという見方もできる。
＊＊＊
【Ｃｕｔ９９　葛城の話】
加持はシンジが、ミサトと自分の関係を聞くつもりなのかと思っていた様だ。加持は、シンジがミサトの事を「女」と意識していると思っていたのだろうか。

＊＊＊
【Ｃｕｔ１０８　アポトーシス】
「第２アポトーシス異状なし」とは、ＥＶＡ３号機起動準備中のアナウンスの一つ。作中でのアポトーシスが具体的に何を指すのかは不明だが、この単語は生物学の用語からの引用。細胞が自己の持つプログラムを作動させて自殺する細胞死現象を意味する。オタマジャクシが蛙に変態する時に尾部細胞が死ぬ現像等がアポトーシスの例である。アポトーシスを誘導する遺伝子は自殺遺伝子とも呼ばれている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１１２　目線】
ミサトが「ＥＶＡを４機も独占か……。その気になれば世界を滅ぼせるわね」と言う。するとリツコは、チラリとミサトの顔を見てから、すぐに話題を変える。第拾六話でＥＶＡの存在に疑問を持ったミサトは、その謎を探る為にリツコにカマをかけてみたのだ。リツコは、ミサトの意図を見抜いたのか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１２３　血管】
エントリープラグが挿入された３号機の眼が光った時、その眼に血管が浮き出ている。零号機、初号機、弐号機には一度もなかった事だ。これも、使徒に乗っ取られている為なのか。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【アイキャッチ】
このエピソードの英文サブタイトルは「AMBIVALENCE」。アンビバレンスは、個人の中に矛盾する二種の感情や態度が同時に存在する事。「同価性」と訳される。元々、精神分析の用語で、最初にこの言葉を用いたのは、スイスの精神分析医ブロイラー（Paul Eugen Bleuler; 1857-1939)。このエピソードに「AMBIVALENCE」というタイトルがつけられたのは何故なのだろうか。３号機を倒さねばならぬという感情と、トウジが乗っている３号機とは戦えないという感情を同時に持つという事か。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５４　山陰から使徒】
山の向こう側から現れる３号機。第拾八話Ｂパートは、往年の特撮映画を思わせるアングルが多いが、これもその一つ。手前の道路沿いの看板が、いかにもという感じ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１６８　弐号機の武器】
この戦闘で弐号機が持っているのはバズーカ砲。アスカは実戦で試したいのか、変わった武器を持って出撃する事が多い。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１７０　同い年】
「やっぱり人が……子供が乗っているのかな？同い年の」とシンジは言う。本作中ではあまり語られていないが、ＥＶＡのパイロットは14歳の少年少女に限られている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２９３　信号】
３号機の血がしたたる信号。これもオープニングで予告された映像の一つ。
＊＊＊

第拾九話　男の戦い
EPISODE：19　INTROJECTION
●平成８年２月７日放映
＊＊＊
第四話でＥＶＡに乗る事から逃げ出したシンジが、再びＥＶＡから逃げ出す。だが、ＥＶＡに乗るという「嫌な事」から逃げても、そこに待っているのはもっと辛い「嫌な事」だった。それを悟ったシンジは、ＥＶＡに乗る事を決心する。
第拾九話は「フォースチルドレン三部作」の最後のエピソードであり、第壱話以来続いた「シンジの成長の物語」を一段落させるエピソードでもある。
この話で、第壱話、第弐話、第四話の印象的な画面が繰り返されている事に注目。同じシチュエーションの中で、シンジが前とは違った行動をとる事で、彼の成長が浮き彫りになっている。
メカアクションに関しても、大変に密度の高い仕上がり。「最強」の使徒との戦いに相応しい、見応えのある映像となっている。

脚本／薩川昭夫　庵野秀明
絵コンテ・演出／摩砂雪
作画監督／本田雄
設定補／あさりよしとお　摩砂雪
演出助手／安藤健　大塚雅彦
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ２１　ＬＣＬ圧縮濃度】
ＬＣＬの圧縮濃度が限界まで上げられたことにより、ＬＣＬは液体に戻った。口から漏れた息が肉眼で見えるのはＬＣＬが液体に戻った為だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２７　３号機の頭】
破壊されているので分かりづらいが、リツコとミサトの前にあるのは、第拾八話で倒された３号機の頭部。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４２　内的宇宙】
トウジ達が乗っているのは、第拾六話でも登場した夕暮れの列車。ここで描かれているのはシンジの内面の、父親に対する葛藤なのだろうか。第拾六話様「嫌な事」が話題になっている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６２　トウジの足】
画面では、トウジの左足が無くなっている様に見える。第拾八話でエントリープラグが潰された時に、失ってしまったのか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６７　先生】
シンジは「先生のところに戻ります」と言う。第拾伍話でも話題になったが、シンジは第３新東京市に来るまで、その「先生」のもとにいたらしい。それが具体的にどの様な立場の人物かは不明。
＊＊＊
【Ｃｕｔ８５　新箱根湯本駅】

この駅は、第四話でシンジが第３新東京市を離れようとしたシーンにも登場した新箱根湯本駅。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１０２　俯瞰のシンジ】
このＣｕｔも、シンジが第壱話で初めて使徒を目にしたＣｕｔのイメージの繰り返し。構図は似ているが、新作画である。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【アイキャッチ】
英文サブタイトルの「INTROJECTION」は精神分析の用語で「取り込み」の意味。対象の諸属性を取り入れて、自らのものとする事。防衛機制の一つであり、「摂取」とも言われる。例えば、母親の禁止的あるいは欲求拒否的な側面が取り込まれる事によって、超自我が形成される。
「INTROJECTION」は、あくまで心的世界の出来事を指す用語であるが、このエピソードでは、本来の意味と、初号機が使徒の能力を取り込んだ事とのダブル・ミーニングで使われている様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１２２　レイの秘密】
嘔吐感に襲われて、「だめなのね……もう」と呟くレイ。「だめ」とは一体何の事なのか。さらに、少し後に「私が死んでも代わりはいるもの」とも言う。彼女の秘密が徐々に露になっていく。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３０　爆発】
爆発によって十字架型の光の柱が立つ。これも、第壱話と第弐話のシチュエーションの繰り返しだ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３７　弐号機の武器】
弐号機の周囲に立ててある武器は、第九話で使用したソニック・グレイブ、パレットガン、ライフル、バズーカ砲等。バズーカ砲は、第拾八話で登場したのとは違うもので、これが初出である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５２　フリゲイト艦】
画面右手前、湖に浮かんでいるのは、ネルフのフリゲイト艦。使徒を迎え撃つために出撃した。フリゲイト艦とは主に対空・対潜を任務とする軍艦の事。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９３　弐号機の頭部】
落下してきた弐号機の頭部が、シェルター内の人間を潰している。潰されたのは、前のシンジがうずくまっているＣｕｔで、画面手前にいた親子連れか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２０８　$N^2$爆弾】
ここで零号機が抱えているのは、$N^2$爆弾。側面に「$N^2$Ｂ」と表示されている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３０８　初号機のコア】
ここで初めて、初号機に使徒と同じコアがついていた事が明らかになる。その姿は、かつて南極に現れた光の巨人を思わせるが。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３１３　コアを攻撃】

コアを執拗に攻撃する使徒。このＣｕｔの絵コンテのト書きには、庵野秀明により「ここは、ストレートに強姦のイメージが有り⊡」と書かれている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３３２　左腕復元】
左腕の復元もまた、第弐話のシチュエーションの繰り返しである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３５１　肉食】
使徒の肉を喰らう初号機。「肉食」という行為の残酷さが強調された描写である。本作の監督である庵野秀明は、肉を食べない事で知られている。そんな彼が「肉食」を描いた事には、何か特別な意味があると考えるべきだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３５５　Ｓ$^{2}$機関】
Ｓ$^{2}$機関とは、使徒体内の、機関区と思われるもの。super solenoid の略。コアと別のものである。
＊＊＊

第弐拾話　心のかたち　人のかたち
EPISODE：20　WEAVING A STORY 2：oral stage
●平成８年２月14日放映
＊＊＊
エントリープラグの中で、シンジの肉体はＬＣＬに同化し、精神と分離してしまった。リツコは、彼の肉体を再構成し、精神を定着させる計画を実行する。
「WEAVING A STORY 2」の英文サブタイトルが示す通り、第弐拾話は、総集編的な内容のエピソード。事実、既成の撮影素材やフィルムの再利用を中心にして作られているのだが、内容に関しては、今までの物語を振り返るという形ではなく、全く新しい物語が展開されている。
また、第拾六話同様、実験的手法が駆使され、シンジの内的宇宙が描写される。精神だけの存在となったシンジは、「他者との関係」や「自己の確立」に悩み苦しむ。今回は、そういった内的宇宙の描写が物語のメインとなっており、その意味で異色作と言う事ができるだろう。また、この話以降、本作は「人の心」を描く傾向が強くなっていく。

脚本／庵野秀明
絵コンテ／鶴巻和哉　庵野秀明
演出／大塚雅彦
作画監督／鶴巻和哉
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１　ゼーレの紋章】
目が七つ並んだ様な奇妙な模様は、ゼーレの紋章。オープニングにも登場している。七つの目がデザインされているが、キリスト教及び、ユダヤ教の神秘主義カバラにおいて、　「７」とは特別な数字なのである。ターミナルドグマに隠されているアダムと呼ばれる巨人にも、七つ目がついていた。
＊＊＊
【Ｃｕｔ５Ｂ　ヘイフリック限界】
生物学の用語。細胞は分裂して増えていくが、その回数には限界がある。それを「ヘイフリックの限界」と呼ぶ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３　猫のクッション】
マヤが抱えているのは、猫の絵がついたクッション。彼女の愛用の品という設定だが、画面に登場したのは、これが二回目。リツコにもらったものだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５　封印】
初号機を包んだ包帯に記された紋章の様なものは「封印」。一種のオカルト的なものと思われるが詳細は不明。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３９　人の意志】
リツコは、ＥＶＡには「人の意志がこめられている」と言う。それは、第拾九話でリツコが言った「彼女が目覚めた」という謎めいた台詞と関係あるのだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ５０Ｂ　第２新東京市テロ事件】

レイが目覚めた部屋で、遠くからラジオのニュース番組が聞こえてくる。番組は一ヶ月前に第２新東京市で起きたテロ事件に関連したニュースを報じている。この時代、使徒の襲来以外にも物騒な事件が多い様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ５８　生命のスープ】
地球の生命の源は、原始の海である。マヤはプラグの中の成分が、生命の誕生した時代の海水に酷似していると言う。
＊＊＊
【Ｃｕｔ９９Ａ　流れる文字】
シンジの葛藤を表すのか、次々に現れる文字。「同一化」「体内化」「共生」「補償」「依存」「喪失」「口唇期」「強迫観念」等。心理学、精神分析の用語も多い。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１０８　回想】
一瞬のみ登場するシンジの回想。何やら広い実験場の様なところにいる様だが、一体ここはどこなのか。いずれにせよ、シンジは自分の心の奥底にあった、ＥＶＡに関する記憶を取り戻した様だ。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【アイキャッチ】
「oral stage」も精神分析の用語で「口唇期」の事。口唇期とはフロイト（Sigmund Freud：1856-1939）のリビドー発達理論における、最初の発達段階。口が、悦びの主要な源泉となる時期である。口唇期は誕生と共に始まり、一歳半くらいに終わると言われている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１８０　心も体も一つに】
シンジの内的宇宙の描写。裸のミサト、アスカ、レイがシンジに身体を許してもいいと囁く。コミュニケーションに関して消極的なシンジだが、心の底では「身も心も一つ」になりたいと望んでいるのか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２４８　母】
シンジが見た母親は、思い出なのか、シンジが作り上げたイメージなのか。いずれにせよ、その母の存在と言葉がきっかけとなり、シンジの身体は実体化し、現実の世界へ帰る事ができたのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２５２　水の揺らぎ】
オープニング、第拾九話等にも登場している水の揺らぎの映像。このシーンでは、母の胎内から見た外界の光のイメージだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２５４　光るコア】
ＥＶＡの前に出現したシンジ、その背後で光っている初号機のコア。まるで、シンジがコアから生み出された様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２５７　ＤＪ】
カーラジオから聞こえてくるのは、ラジオのＤＪ番組。第拾弐話で流れていたのと同じ番組と思われる。女性ＤＪが、リスナーの恋愛問題について相談に乗っているが、ここでも「oral stage」という語

が登場している。この場合の「oral stage」は、口唇性格の事。つまり、依存的な愛情欲求が強い性格傾向を指している。口唇性格の人物は、他者からの愛情を手に入れるために、喜んで自分を犠牲にする。現在のシンジも、口唇性格と言えるかもしれない。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２６１　自分の情事】
「シンジ君が無事と分かったら、男と密会とはね……人の事は言えないか」とリツコ。どうやら彼女もミサトの事を悪く言えない事情がある様だ。その事情とは何なのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２６２　ラブホテル】
直接的な映像こそないものの、あまりに大胆なラブシーンの描写である。放映時に話題となった。
＊＊＊

ＤＩＳＣ　６
第弐拾壱話　ネルフ、誕生
EPISODE：21　He was aware that he was still a child.
●ＴＶ平成　８年２月21日放映
＊＊＊
このエピソードから、『新世紀エヴァンゲリオン』は最後シリーズである第４部に突入する。第４部では、より登場人物の内面に深く入り込んだ形でドラマが展開。「謎解き編」的な傾向も強く、数々の謎が解決され、その一方で新たな謎が提出されていく。第弐拾壱話は、登場人物達の過去が描かれるエピソード。ここから、ゲンドウと冬月を主人公とした「もう一つの『エヴァンゲリオン』」の物語が、見えてくるのではないだろうか。設定的な新事実も多く、シリーズの中でもかなり重要な話数である。
第弐拾壱話は、第伍話、第拾伍話に続く、薩川昭夫、甚目喜一、鈴木俊二のトリオの手になる、アクションのほとんどないドラマ中心のエピソードである。全体の大人びたムードは魅力的であり、完成度は高いと言えよう。

〈ＯＡフォーマット版スタッフ〉
脚本／薩川昭夫　庵野秀明
絵コンテ／甚目喜一
演出／石堂宏之
作画監督／重田智
設定補・レイアウト監修／鈴木俊二
〈ビデオフォーマット版スタッフ〉
絵コンテ／甚目喜一
演出／大塚雅彦　鈴木俊二
作画監督／鈴木俊二
＊＊＊
ａｖａｎｔ　Ｔｉｔｌｅ
＊＊＊
【Ｃｕｔ３０６　研究施設内の会話】
冒頭の「2000年　南極大陸」のシーンの最初の長回しのＣｕｔは、セカンドインパクトが起きる直前の、南極の研究施設内を録画したビデオテープの映像。主な音声はその施設のスタッフの声。さらに、同じ場所にいたキール議長とゲンドウの声も入っている。この一連のシーンの台詞から得られる情報は多い。まず、$S^2$（super solenoid）理論を提唱したのが、ミサトの父である葛城博士であるらしい事が分かる。$S^2$機関とは使徒体内の機関区と思われるものである。また、この映像が録画された一週間前に、ロンギヌスの槍が死海から陸上げされているようだ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３０７　アダムにダイブした遺伝子】
同じく南極のシーン。「アダムにダイブした遺伝子はすでに物理的融合を果たしています」の台詞がある。第１の使徒と呼ばれるアダムに、何者かの遺伝子を融合させたという事だろうか。その後の「槍を引き戻せ」という台詞の槍とは、ロンギヌスの槍の事だろうか。同シーンには「ガフの扉が開く」という台詞も登場している。
＊＊＊
Ａパート

＊＊＊
【Ｃｕｔ２１　1999年　京都】
劇中では大学名は出ていないが、冬月が勤務しているのは京都大学であるらしい。第拾伍話「嘘と沈黙」で、京都で何かを調査していた加持が「16年前、ここで何が始まったんだ」と一人ごちていたが、その「16年前のここ」というのが、1999の京都の事である。加持の言う「何か」とは、冬月とユイとゲンドウの出会いと、何か関係があるのだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４２　六分儀ゲンドウ】
六分儀はゲンドウの旧姓。後のユイとの結婚は、彼が碇家に入り婿として入る形だった様だ。変わった姓だが、六分儀とは天文航行用の簡易天測機器の事でもある。碇と同様に、航海に関連した語というわけだ。
初対面の冬月に対して、ゲンドウは「期待した通りの人物」だと思い、冬月は彼を「イヤな男」と思った。「好かれるのは苦手だが、疎まれるのには慣れている」と言うゲンドウは、教授に「人付き合いを軽く見ている」と言われるような冬月を自分と同類だと思ったのかもしれない。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３１０　愛知県　豊橋市跡】
セカンドインパクトにより、豊橋市の建物は水没してしまっている。ここで、冬月は小船の一つを病院として使い、無免許医師として怪我人や病人を診ていた様だ。またここでは、使われていないタンカーに、家を失った人々が暮らしているらしい。冬月を南極への調査に誘いにきた男が「上の船には移らないのですか」と訊くと、冬月は「隣の町か」と答える。それはタンカーの上に造られた町の事だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ７３　赤い海】
「同年　南極大陸」のテロップの後、調査船が進むのは、かつて南極大陸があった場所。海は赤く、塩の柱があちこちに立っている。2015年の段階でも、南極は同様の状況である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ８４　笑うゲンドウ】
南極に向かう船上で再会したゲンドウは、冬月に、ユイとの結婚を知らせる通知をわざわざ手渡しし、さらに自分との間に子供がいる事を告げてニヤリと笑う。彼は、冬月がユイに好意を持っていた事を知っていて、勝ち誇っているのだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３２６　爆発中心部】
冬月が見ているセカンドインパクトに関するレポートに添えられたのは、冬月の言葉通り、セカンドインパクトの爆発中心部にあった巨大な地底空洞をスキャンしたもの。その形は、ネルフ本部が位置するジオフロントに似ている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１０６　新聞記事】
国連の、セカンドインパクトは大質量隕石の落下によって起きたという発表が報じられた新聞。その隣には、国連本部が５年後に日本へ移転するという記事が掲載されている。候補地は第２新東京市だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１１１　人工進化研究所】
人工進化研究所は、ゼーレの調査機関であるゲヒルンの隠れ蓑となっている組織。ＡＥＬとも呼ばれている。第拾六話「死に至る病、そして」に登場した新聞記事によれば、ここでは遺伝子操作やゲノム

生物学に関する研究が行われていると世間に認知されていたようだ。また、同話の新聞記事では人工進化研究所が「死海写本」について研究している事も報じられている。一般に「死海写本」と「死海文書」は同じものである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１２９　球状空間】
箱根の地下に広がる球状の地下空間。ゲンドウの言葉によれば、その89％は地下に埋まっており、そのデータは南極の地下空間とほぼ一致しているという。冬月は、ここでもセカンドインパクトと同様の悲劇が起きるのではないかと心配している。地下空間とセカンドインパクトにはどんな関係があるというのだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３８　女子高生のリツコ】
たまたま母の仕事を見にきていたのだろうか、ゲヒルン内にいたリツコ。この当時の彼女は18歳。まだ、髪は染めておらず、母と同じやや赤みがかった黒髪である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１４１　ＥＶＡ零号機実験体】
ゲヒルン地下に置かれていたＥＶＡは、零号機の試作品。それをゲンドウは「アダムより人の作りしもの」と語っている。現在の零号機は光学レンズが単眼であるが、この段階では複眼である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１４４　Ｅ計画】
同シーンのゲンドウは、第壱話より名称が登場していたＥ計画について、人の手によってアダムを模したＥＶＡを造り出す計画であると冬月に説明している。ちなみに、赤木リツコはゲヒルン入所以来、Ｅ計画に関わっており2015年の段階では、ネルフにおける同計画の責任者となっている。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５５　第２次遷都計画】
赤木ナオコの手紙の中に登場した第２次遷都計画とは、日本の首都を長野県松本市の第２新東京市から、箱根の第３新京新東京市に移す計画である。第２新東京市は、旧東京に代わる新しい首都として、2001年より、長野県に建設が開始され、この頃には首都としての役割を十分に果たすようになっている。第３新東京市は、ナオコ達が作業をしている地下空洞の真上に建設されている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３３４　冬月の視線】
芦ノ湖畔の、大きな木の下で会話する冬月とユイ。ユイはシンジを連れているが冬月は、何故かシンジを見ようとしない。シンジに目線を向けないで会話をするため、冬月は、ユイの後ろ姿を見る事になり、その結果、ノースリーブの服の脇からユイの胸元を見てしまう。彼は、少しの間それをみつめる。彼は、シリーズを通して、シンジの名を口にする事は一度もなく、「碇の息子」等と呼んでいる。ユイとゲンドウの間に出来た子の存在を認めたくなかったのだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３３４　裏死海文書】
同シーンで冬月の言葉の中に登場する裏死海文書。どうやら、今までのエピソードでゲンドウ達が言っていた「死海文書」とは、「裏死海文書」の事であるらしい。一般に知られる「死海文書」との関係は不明。少なくとも、全く同じものではないだろう。
＊＊＊

【Ｃｕｔ１６５　地下第２実験場】
ユイの実験が行われたのが、地下第２実験場。後に零号機の起動実験等が行われたネルフ本部内第２実験場と同じ施設であるようだ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１７８　アダム計画】
総司令官公務室におけるゲンドウと冬月の会話から、第拾四話で名称のみ登場した「アダム計画」が、オリジナルのアダムの再生計画であり、ＥＶＡを造り出す「Ｅ計画」とは別のものである事が推測できる。総司令官公務室は、ピラミッドのような形をしたゲヒルン本部（後のネルフ本部）の頂上近くに位置する。この時点では、まだ建築中であり、窓の外に作業用の足場が見える。手前にも「CAUTION　注意　ガラス有」のシールが貼られている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９８　ゲンドウとレイ】
ゲンドウと幼いレイが、足下にゲヒルン本部を見ている場所は、球状の地下空間の内側にぶら下がっている天井ビルの、最下層にあるロビー。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２５２　死んでも代わりがいる】
赤木ナオコは、レイの首を絞めながら「あんたなんか死んでも代わりはいるのよ……レイ」と言う。ナオコは、レイと初めて会った時には、彼女の事は何も知らなかった。その後、色々と調べてレイの秘密に迫ったのだろう。
＊＊＊

第弐拾弐話　せめて、人間らしく
EPISODE：22　Don't be.
●ＴＶ平成　８年２月28日放映
＊＊＊
第弐拾弐話は弐号機パイロット、惣流・アスカ・ラングレーにスポットを当て、その心の内側を赤裸々に描き切るエピソード。第４部では、重要なシーンで知名度の高いクラッシク曲をＢＧＭとして使用し、結果を上げている。このエピソードで使われているのは、ヘンデルのオラトリオ「メサイヤ」。メサイヤとは救世主の意味で、歌詞は聖書からとられている。キリスト誕生の預言からその復活までを三部に分けて描いている。

〈ＯＡフォーマット版スタッフ〉
脚本／山口宏　庵野秀明
絵コンテ／鶴巻和哉
演出／高村彰
作画監督／花畑まう
メカ作監／吉成曜
設定補／鶴巻和哉
〈ビデオフォーマット版スタッフ〉
絵コンテ・演出／鶴巻和哉
作画監督／本田雄　貞本義行　鶴巻和哉
＊＊＊
ａｖａｎｔ　Ｔｉｔｌｅ
＊＊＊
【Ｃｕｔ２９２　空母】
第弐拾弐話冒頭のシーンは、国連海軍の正規空母オーヴァー・ザ・レインボウの飛行甲板の上。第八話「アスカ、来日」で、アスカと加持が、シンジ達と出会う前夜の出来事である。
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１　葬儀】
Ａパート最初のシーンは、アスカの母である惣流・キョウコ・ツェッペリンの葬儀の回想。場所は独国の某所である。葬儀に参列していたアスカが、さらに以前のキョウコの病室での模様を回想するという構成になっている。キョウコは、ＥＶＡ開発に関連した接触実験に参加し、精神崩壊を起こした様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ５　父親と女医】
病室のシーンで、アスカの母親と人形について話をしているのは、アスカの父親と女医。女医は父親の愛人でもある様だ。この二人の関係が、キョウコの自殺の原因なのかもしれない。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５Ｂ　弐号機】
第14の使徒との戦闘で大破したＥＶＡの修理が行われている。弐号機は頭部と両腕を失ったが、この場面では弐号機に首が取りつけられようとしている。右腕は、すでにつけられている様だ。
＊＊＊

【Ｃｕｔ３１６　元のサヤ】
アスカは、駅のホームにいるシンジとレイを見かけた。アスカには、二人が楽しげに会話をしている様に見えた。「何よ、ちゃっかり元のサヤにおさまちゃって」とアスカは言う。彼女は、シンジとレイがかなり親密な関係であると思っている様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３４　飲んでいるふり】
ミサト、シンジ、アスカの三人揃っての夕食。このシーンで、ミサトはずっと缶ビールを口につけたポーズでいる。途中から缶の底が下がっているのは、飲んでいるのではなく、飲んでいるふりをしているため。このシーンで、ミサトが一度も口を見せないのは、彼女が、アスカに対して加持の死を黙っているという事に関連したスタッフの演出なのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４０　国際電話】
義母相手の電話に、アスカはドイツ語で喋る。その内容は、概ね以下の通り。「もしもし、お母さん。私達は食事を済ませたところよ。お母さんは？彼を紹介しようか？まさか、そんな事ないわよ。彼は社交的じゃないのよ。うん、うん。ホント、へえ、そうなの。それはよかったわねえ」「私も、話す事はないわ。また今度ね。切るわね。それじゃあ、おやすみなさい！」
ちなみに、ここの台詞は台本には書かれておらず、アスカ役の宮村優子にお任せであった。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３１９　風呂場】
アスカが、風呂場で浴槽のお湯を抜くシーン。手で下腹部を押さえているのは、生理痛のため。ヒステリックになっているのも、生理が原因の一つか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３３８　万年床】
アスカのヒステリックな声を、自分の部屋で聞くミサト。万年床の周りに置かれているのはビールではなく、全て缶コーヒー。この前後から、ミサトは酒をあまり飲まなくなり、缶コーヒーを愛飲するようになる。缶コーヒーは、庵野監督の好みの銘柄でもあるＵＣＣのものだ。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１４７　ＥＶＡ専用ポジトロン20Xライフル】
弐号機が第15の使徒への攻撃に使用したのは、ＥＶＡ専用ポジトロン20Xライフル。
第六話と第九話に登場したＥＶＡ専用ポジトロンライフルを改造したもの。質量センサーで目標を確認する望遠スコープが取りつけられている。このライフルを使用するために、弐号機は右の肩パーツを外している。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１７７　独語】
弐号機が、第15の使徒による心理攻撃を受けるシーン、アスカの内的宇宙のシーンで、アスカの反応や感情を表現するものとして、画面に独語と日本語の文字がインサートされている。Neinは「拒絶」、Erhängteは「首つり」、Menarcheは「初潮」、der Verlustは「喪失」、Todは「死」、等。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９５　大出力ポジトロンライフル改】
零号機が最初に第15の使徒使った武器は、大出力ポジトロンライフル改。戦略自衛隊の技術研究室製

である。第六話のヤシマ作戦時に使用されたポジトロン・スナイパー・ライフルを改造したものである様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２１２　おサルのぬいぐるみ】
内的宇宙のシーンで少女のアスカが持っているサルのヌイグルミは、実は、アスカ役の宮村優子の手によるデザイン。彼女に描いてもらったサルの絵を、本編で使用したのだ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３４３　いろいろなアスカ】
アスカの母の声で喋る人形の「あなた、誰？」の問いに答えるかの様に、声の違う様々なアスカが登場する。演じるは、お馴染みの女性キャスト、三石琴乃、林原めぐみ、長沢美樹、山口由里子、岩男潤子。
＊＊＊
【Ｃｕｔ４１２　内的宇宙】
アスカの内的宇宙のシーンの最後で、彼女の心の動きを示すのであろう言葉が次々に画面に現れる。
「拒否」「父」「母」「欠落」「不安」「分離」「逃避」「接触」「強迫性」「愛着行動」「依存」「空虚」「精神崩壊」「「同情」「私は人形じゃない」「精神汚染」「犯さないで」等。
「男性的抗議」や「反動形成」といった精神分析用語も多い。また、この話の英文サブタイトル「Don't be.」もここで登場している。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２３８　アダムとＥＶＡの接触】
ゲンドウが、零号機にロンギヌスの槍を使わせようとした時に、ミサトは、アダムとＥＶＡの接触はサードインパクトを引き起こす可能性があると、ゲンドウに言う。第拾九話で、加持も同様の事を言っていた。ミサトのその知識は、加持から得たものなのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２５３　フリゲイト艦】
アダムが安置されているセントラルドグマ最下層に満ちたされたＬＣＬに、フリゲイト艦が浮かんでいる。これは、ジオフロント内の湖に浮かんでいるフリゲイト艦と同型艦である様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２５９Ｃ　アダムの下半身】
ロンギヌスの槍を引き抜いた瞬間、アダムの下半身が一瞬にして生える。今までロンギヌスの槍が刺さっていた事によって、アダムは再生が止められていたのだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２７９　第一宇宙速度】
日向は、零号機によって投げられたロンギヌスの槍について、「第一宇宙速度を突破」と言っている。宇宙速度とは、宇宙飛行に必要な地表面に対する最小速度。第一宇宙速度とは、地球の人工衛星となれる最小速度の事で、毎秒7.9㎞。
＊＊＊

ＤＩＳＣ　７
第弐拾参話　涙
EPISODE：23　Rei Ⅲ
●ＴＶ平成　８年３月６日放映
＊＊＊
第弐拾参話は、綾波レイにスポットが当たるエピソード。彼女の内面、死、三人目の彼女とその正体が描かれる。同時にリツコのドラマが描かれるエピソードでもあり、「涙」のタイトルが示す通り、Ａパートではレイが、Ｂパートではリツコが涙を流す。
キャラクターの生死や愛憎が描かれるエピソードでありながら、全体に非常にクールなトーンで物語は進む。そのクールさは作品のテーマとも深く関わったものと言えるだろう。

〈ＯＡフォーマット版スタッフ〉
脚本／山口宏　庵野秀明
絵コンテ／鶴巻和哉　庵野秀明
演出／増尾昭一
作画監督／鈴木俊二
設定補／鈴木俊二　鶴巻和哉
演出助手／大塚雅彦　安藤健
〈ビデオフォーマット版スタッフ〉
絵コンテ／摩砂雪　庵野秀明
演出／増尾昭一
作画監督／鈴木俊二
メカ作画監督／吉成曜
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ３　缶コーヒー】
ミサトの机の上と周囲に、何本も飲み干したコーヒーの缶が置かれている。ビールを飲む様な心境ではないという事か、あるいは真実に迫るために大好きなビールを断ったのか。缶のデザインは、庵野監督が愛飲しているＵＣＣの缶コーヒーがモデル。
＊＊＊
【Ｃｕｔ９　アスカの文字】
アスカの部屋のドアにかけられたプレートに書かれた「許可なく立ち入りを禁ず。勝手に入ったら殺すわよ！　Eintritt Verboten!」の文字。独語に比べて日本語の文字が乱れているのは、まだ、日本語の書き馴れていないためだろうか。「Entritt Verboten!」は「立入禁止」の意。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６３　大涌谷】
第16の使徒が定点回転をしつつ留まっていた大涌谷は、第３新東京市の東方に位置する谷。第16の使徒は強羅から大涌谷へ、箱根ロープウェイのルートに沿って、第３新東京市に接近したわけである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ６８　パターンオレンジ】
使徒がパターン青からパターンオレンジに周期的に変化していると青葉は報告する。パターン青とは、

使徒の識別パターンである。青とオレンジの間で変化し続けているとは、使徒と使徒ではないものの間で変化し続けているという事か。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１２６　使徒と呼んでいるヒト】
レイは、自分の心の中に現れた使徒の事を「私達が使徒と呼んでいるヒト」と言う。これは彼女は使徒をヒトとして認識しているという事か。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１２７　「私と一つにならない？」】
使徒は、レイに「私と一つにならない？」と囁きかける。第弐拾話の内的宇宙のシーンでは、ミサト、アスカ、レイが同様の事をシンジに言った。他者との融合は、本作のテーマと深く関連したモチーフであるのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１４２　使徒】
第16の使徒によって浸食された零号機の後背部から、肉色の物質が噴出し、一気に膨張した。その形状は第3から第15までの使徒の姿に酷似している。これは零号機の肉体が変化したものなのだろうか。そして、使徒との物理的融合が、その原因なのだろうか。この現象はＥＶＡや使徒の正体と関連しているのかもしれない。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１６４　レイの心】
第16の使徒の一部が、出撃してきた初号機を襲う。それに対して、レイは「これは私の心？碇君と一緒になりたい？」と言う。レイと同化した使徒が、彼女の望みに従って、初号機との物理的融合を果たそうとした、という事なのだろうか。レイは、シンジと一つになりたいと望んでいたのだろうか。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【アイキャッチ】
この話の英文サブタイトルは「Rei Ⅲ」。レイにスポットが当たった第伍話と第六話の英文サブタイトルが「Rei Ⅰ」「Rei Ⅱ」であった。このエピソードはそれに続く三つ目のエピソード。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９２　巨大クレーター】
零号機の爆発によって第3新東京市の建築物と地表の大半が削り取られて、巨大なクレーターとなってしまった。芦ノ湖の水がクレーターに流れ込み、湖の様になっている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９５　プラグの中】
リツコ達は、発見された零号機エントリープラグの中に何を見たのだろうか。リツコと一緒にいる技術局要員の声から察するに、予想もしなかった様な何かがあったと思われるが、画面が暗くて見えづらいが、リツコ達がエントリープラグを覗き込むＣｕｔで、画面手前に炭化したヒトの手が見える。綾波レイのものだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９５　汚染区域】
無線によるやりとりなのだろう。リツコ達がエントリープラグ内を覗き込んでいるところで、「レベルＣの汚染区域は南西方向に広がっています」等の台詞が聞こえてくる。零号機の爆発により、放射能汚染の様な事態が起きたのだろうか。

＊＊＊
【Ｃｕｔ１９８　使徒の名称】
ゼーレの会議の場面で、今までに登場した第３から第16までの使徒の映像が挿入され、今まで本編中で不明だった第11から第16までの使徒の名前が明らかになる。それぞれの使徒の名前は、聖書外伝や偽典中の天使の名前と同じであり、使徒の個性や登場のシチュエーションは、その天使の担う分野と一致している。以下の通りである。
第３の使徒サキエル（「水」の天使）
第４の使徒シャムシエル（「昼」の天使）
第５の使徒ラミエル（「雷」の天使）
第６の使徒ガギエル（「魚」の天使）
第７の使徒イスラフェル（「音楽」の天使）
第８の使徒サンダルフォン（「胎児」の天使）
第９の使徒マトリエル（「雨」の天使）
第10の使徒サハクィエル（「空」の天使）
第11の使徒イロウル（「恐怖」の天使）
第12の使徒レリエル（「夜」の天使）
第13の使徒バルディエル（「霰」の天使）
第14の使徒ゼルエル（「力」の天使）
第15の使徒アラエル（「鳥」の天使）
第16の使徒アルミサエル（「子宮」の天使）
＊＊＊
【Ｃｕｔ１９８　使徒の数】
同シーンで、ゼーレの死海文書に記述されている使徒は、あと一つであると語られている。そして、「約束の時」は近いとも、ゼーレの計画と、使徒殲滅には何らかの関係があるのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２３３　包帯と眼帯】
本人の言葉を信じるならば、ここで病院に現れた綾波レイは三人目。今までのレイとは別人である様だ。病院に現れた彼女は、包帯を巻き、腕をつり、眼帯をしていた。だが、次の自分のマンションのシーンでは、すぐに包帯や眼帯をとってしまう。包帯の下には、怪我の跡等は無い。病院に現れた事や包帯等をしていた事は、三人目の彼女を、第16の使徒との戦闘で奇跡的に助かった前のレイであると、偽装するための工作なのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２７５　残るはあと４体】
８体のＥＶＡが完成しており、あと４体必要だとゼーレのメンバーは語る。計12体のＥＶＡが彼等の計画に必要であるらしい。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２９０　人工進化研究所３号分室】
「人工進化研究所３号分室」と書かれたプレート。その文字の下には、ゼーレの紋章と思われるマークが見える。ゼーレの紋章の七つの目は、新約聖書の「ヨハネの黙示録」に登場する七つの目の羊に由来するのだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３００　破棄されたＥＶＡ】
セントラルドグマの地下に破棄された、ＥＶＡの失敗作。それは、セフィロトの樹を模した溝と穴の

中に捨てられている。セフィロトの樹とは、ユダヤ教の神秘主義カバラの象徴的な図版であり、世界の成り立ちを説明するものである。セフィロトの樹は、生命の樹とも呼ばれている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３１７　神様とアダム】
水槽の中のレイ達を前にして、リツコは、レイとダミープラグの関係を、そして「神様」とＥＶＡの関係を語る。劇中で初めて本格的に語られるＥＶＡの秘密である。数多くの新しい情報が提示されるが、同時に数多くの新たな謎も生まれる。15 年前に消えてしまった「神様」とは、一体、何者なのか。15 年前に消失したのは第１の使徒アダムではなかったのか。人間は自分達で「神様」を復活させようとした。それがアダムだというが、この場合のアダムとは地下の巨人の事なのか。それとも、別の存在を指すのか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３１７　人の心】
また、リツコはＥＶＡにはサルベージされた「人の心」が宿らせてあると語る。サルベージと言えば第弐拾話で語られた 10 年前のサルベージ計画の事が思い出されるが、ＥＶＡに宿らせてある「人の心」とは、そのサルベージ計画と関係あるのだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３１７　ガフの部屋】
「ガフの部屋は空っぽだった」とリツコは語る。ヘブライの伝説におけるガフの部屋とは、天国の神の館にある魂の住む部屋。赤ん坊は生まれる前に、この部屋から魂をもらうのだ。ガフの部屋から魂がなくなる事は、世界が滅ぶ前兆だという。リツコの語るガフの部屋は、このヘブライの伝説のガフの部屋と同じものなのだろうか。
＊＊＊

第弐拾四話　最後のシ者
EPISODE：24　The Beginning and the End, or "Knockin' on Heaven's Door"
●ＴＶ平成　８年３月13日放映
＊＊＊
周囲の人間との関係や、過酷な現実に疲れたシンジの前に、彼を暖かく包む様に接してくれる少年、渚カヲルが現れた。
カヲルの出現は、シンジにとって魂の救済かと思われた。だが、彼こそがゼーレが送り込んできた使徒。最後のシ者であった。裏切られたと思い込んだシンジは、ＥＶＡでカヲルを扼殺してしまう。
他者と触れ合わなければ、ヒトは裏切られる事も、傷つく事もない。だが、それでは寂しさを忘れる事もできない。常にヒトは心に痛みを感じ、生きるのを辛いと感じる。その様にヒトの心について雄弁に語ったカヲル自身が、シンジの心を惹きつけ、そして、深く傷つけた。それは彼の作為なのか、あるいは運命なのか。ヒトには、シンジには救済される道はないのか。第弐拾四話はクライマックス直前の、物語的にも、テーマ的にも重要なエピソードである。
このエピソードに使われているＢＧＭは、ベートーヴェンの交響曲第九番二短調作品125「「合唱」第四楽章だけである。初登場時にカヲルが鼻歌で歌っているのも、ＳＤＡＴでシンジが聞いている曲も第九という徹底ぶりである。クライマックスでは７分以上も使用され、大変に印象的なものとなっている。合唱「歓喜の歌」の歌詞は、独国の詩人・劇作家シラーの詩「歓喜に寄す」が用いられている。その詩には「天国に、汝の神殿に踏み入ろう」といった一節もあり、この曲が使われた後半部分の内容とリンクしているとも考えられる。

〈ＯＡフォーマット版スタッフ〉
脚本／薩川昭夫　庵野秀明
絵コンテ／摩砂雪　庵野秀明
演出・絵コンテ・作画監督／摩砂雪
レイアウト監修／貞本義行
設定補／鶴巻和哉
演出助手／大塚雅彦　安藤健
〈ビデオフォーマット版スタッフ〉
絵コンテ・演出・作画監督／摩砂雪
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５　バスタブの中のアスカ】
ＥＶＡのパイロットとして自身を失い、さらに加持の死を知ってしまったアスカは、精神的なダメージを受け、ミサト達の前から姿を消してしまった。行方不明になった彼女が入っていたバスタブは、半壊した建物の中にあり、天井は抜け、空が見えている。零号機の爆発で被害を受けた地域にある建物なのだろう。バスタブに入っている水は、錆と油が浮いたもの。それも少ししか入っていない。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２８　レイと母親とＥＶＡ】
自分の部屋でベッドに横たわり、レイについて考えるシンジ。どうやら、自分の母親とレイの関係について何か確信を持ち始めている様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ５２　リリン】

リリンは、正確にはリル＝イン。リリスの子供達につけられた名前である。リリスに関しては別項を参照されたし。このシーンでカヲルが言うところの、文化の極みを生んだリリンとは、人類の事を指すのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ５４　仕組まれた子供】
カヲルは自分もシンジも「仕組まれた子供」であると語る。ＥＶＡに乗るために用意された子供という意味なのか。あるいはその存在そのものが、ゼーレやゲンドウの計画の一部だという事なのだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ７８　リリンと同じ形】
カヲルはレイに対して「君は僕と同じだね」と言い、さらに「お互いに、この星で生きていく身体はリリンと同じ形へ行き着いたか」と語る。これはどういう意味なのだろうか。本来はヒトとは違う形をした存在だったが、いくつかの選択肢の中から、最終的に人間の形を選んだという事だろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１０５　寂しさ】
カヲルは語る。「人は一人だから、寂しさを永久になくす事はできない」と。第弐拾参話で、レイがもう一人のレイと同様の事について話している。この考え方は、本作のテーマと深く関連したモチーフである。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１２４　ロンギヌスの槍】
ゲンドウは初号機に向かって言う。「我々に与えられた時間は、もう残り少ない。だが、我らの願いを妨げるロンギヌスの槍はすでにないのだ」と。ロンギヌスの槍は、ゼーレの計画にとっては必要なものであり、ゲンドウにとっては邪魔なものだったという事なのだろうか。間もなく現れる最後の使徒を倒せば、願いが叶うとも彼は言う。そして、初号機に「ユイ」と呼びかけた。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１２７Ｂ　胎児のアダム】
ゲンドウの掌に融合した人間の胎児の様な物体。これは第八話のラストで、加持がネルフ本部に持ってきた「最初の人間アダム」である様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１３１　ミサトのマンション】
ミサトはペンペンを抱きながら、「ここが町外れでよかったわ」と言う。これはミサト達の暮らしていたマンションが第３新東京市の端にあったため、零号機の爆発の被害を受けずに済んだという意味。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３２７　黒き月と白き月】
カヲルに対してゼーレが語る。「それは偽りの継承者である、黒き月よりの我らの人類。その始祖たるリリス。そして、正統な継承者たる失われた白き月よりの使徒。その始祖たるアダム」。黒き月とリリスとは？白き月とアダムとは？これもまた、新たな情報であり、新たな謎である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３２７　サルベージされた魂】
サルベージされた魂が、カヲルの中にあるとゼーレは語る。ＥＶＡに、サルベージされた「人の心」が宿らせてある様に、カヲルにも心が宿らせているというのか。それは第１の使徒アダムなのだろう

か。彼が、レイに対して「君は僕と同じだね」と言ったのは、「心」が宿らせている事と関係しているのだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１４５　地底湖の橋】
ミサトと日向が車を止めて、カヲルのデータについて話をしているのは、ジオフロント内にある地底湖にかかった橋。湖の向こう側にネルフ本部が見える。密談のために本部から離れた場所を選んだのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１５１　アダムの分身】
カヲルは弐号機を「アダムの分身、そして、リリスの下僕」と呼ぶ。やはり、ＥＶＡはアダムから作られたものなのだろうか。それとも。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２２７　心の壁】
Ａ．Ｔ．フィールドは「誰もが持っている、心の壁」であるとカヲルは語る。Ａ．Ｔ．フィールドは誰もが持っているが、ＥＶＡと使徒のみが自在に使う事ができるという事なのだろうか。すると、今まで出現した使徒も心を持っていたのだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２７９　リリス】
カヲルは地下の巨人を見て「リリス」と言った。これはアダムだと思われていた巨人が、実はリリスだった事に気づいたという事なのだろうか。リリスとは、ヘブライの伝説によればアダムの最初の妻であった女性。彼女は性交の際に主導権がアダムにある事を嫌がり、そのためにアダムのもとから出奔し、神によって罰を与えられた。民間伝承によれば、リリスは出奔した後、悪魔達と淫蕩な行為に耽り、多くの子供を産んだとされている。その子供達がリリンである。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２９８　滅びの時】
「滅びの時を免り、未来を与えられる生命体は一つしか選ばれない」とカヲルは語る。これは人類と使徒の事だろうか。滅びの時を免れ、未来を手に入れるために人類と使徒は戦ってきたのだろうか。また、「滅びの時」とは、ゼーレの言うところの「約束の日」なのだろうか。
＊＊＊

ＤＩＳＣ　８
第弐拾伍話　終わる世界
EPISODE：25　Do you love me?
●ＴＶ平成　８年３月20日放映
＊＊＊
『新世紀エヴァンゲリオン』の物語は、第弐拾四話のラストを分岐点として、二つの物語に分かれる。その二つの物語はそれぞれ別の展開をし、別のクライマックスを迎えた。一つが、ＴＶ放映された第弐拾伍話と最終話。そして、もう一つが劇場版『THE END OF EVANGELION』として公開された第25話と第26話である。
ＴＶ放映版『新世紀エヴァンゲリオン』のクライマックスは、大半が登場人物の内面世界のみで展開するという異色のものとなっている。それまで『エヴァンゲリオン』は、主人公達の物語を通して「人の心」、あるいは「人と人のコミュニケーション」というテーマを描いてきた。ところが、この第弐拾伍話と最終話においては「物語」と「テーマ」の位置が逆転したのだ。一般的な意味での物語は最低限に抑えられ、「テーマそのもの」が語られたと言ってよいだろう。
実験的で、不条理劇的ですらあるその内容は、勿論、ＴＶアニメーションとしては、かつてないものであり、放映当時には大変な話題を呼び、ファンの間でも賛否が分かれた。放映当時には、物語が理解できないという声も多かったが、実は劇中で物語に関する最低限の説明はなされている。つまり、ゲンドウが、レイを使い人類補完計画を実行に移し、人の心の補完が始まる……という展開である。
第25話を見る事によって、かえって、この第弐拾伍話の内容が分かりやすくなるかもしれない。第弐拾伍話及び最終話と、第25話及び第26話は、同じ設定を使い、同じテーマを、別の展開で描いている。同じ遺伝子を持ちながら別人である、一卵性双生児の様な関係にあるのだ。

脚本／庵野秀明
絵コンテ／鶴巻和哉　庵野秀明
演出／鶴巻和哉
作画監督／本田雄
演出助手／大塚雅彦　安藤健
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１　レゾンデートル】
Ａパートの最初に出るのは「存在理由、レゾンデートル」のテロップ。raison dêtre は仏語で、存在理由、存在価値の意味。このクライマックスの、あるいはシンジのテーマと言ってよい概念である。
＊＊＊
【Ｃｕｔ５２　強迫観念】
強迫観念とは、不合理と分かっておりながら、意識から拭おうとしても取り除く事のできない特定の考えの事。不合理であると本人が自覚している点で、妄想とは区別される。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１１０　湖の中の弐号機】
湖で膝を抱えている弐号機と、その中で同様に膝を抱えているアスカ。この第弐拾伍話だけでは、何故、彼女が乗った弐号機が水中にいるのか分からない。その理由は、第25話を見る事によって推測する事ができる。描かれてはいないが、第弐拾伍話の世界でも、戦略自衛隊によるネルフへの攻撃が行われ、アスカは弐号機に乗せられて、湖に沈められたのだろうか。

＊＊＊
【Ｃｕｔ１１３　分離不安】
分離不安は心理学用語。乳幼児が母親、あるいは養育者から引き離された時に感じる不安の事。子供だけでなく、成人の意識の中にも分離不安が働いている事がある。発達途中の子供を母親、あるいは養育者から強制的に引き離す事は、時期によっては心的外傷を残す可能性があるとも言われている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１１９　愛着行動】
愛着行動 も心理学用語。特定の対象と交わす情緒的な結びつきを愛着と呼ぶ。それに付随する本能的な反応が愛着起動である。例えば、乳児が母親等が視界から消えれば泣き、現れれば微笑むといった反応を示すのも愛着行動である。幼いアスカが「だからＥＶＡに乗っている」と言った直後に「愛着行動」のテロップが出るが、これはアスカがＥＶＡに乗る行為が、一種の愛着行動だという意味なのだろう。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１７０　この日のため】
ゲンドウはレイに「今日、この日のためにお前はいたのだ」と語る。続いて「そして―人々の補完が始まる」のテロップ。ゲンドウの補完計画には、レイの存在が必要であり、これから、彼女を使って補完計画を始めようとしているのだろう。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１８５　リツコとミサト】
ＬＣＬに浮いているリツコと、壁に血痕を残して倒れているミサト。二人共、銃で撃たれている様だ。何故、彼女達がこうなってしまったかについては、湖の中の弐号機と同様、この話だけでは分からない。補完計画発動の前後に惨劇があったらしいと推測する事はできるが。続くシーンで、ミサトとリツコが補完計画について問答をするが、これは「一つにまとめられた心の中」での、二人の会話なのだろうか。
＊＊＊
【Ｃｕｔ１８６　全ての心が一つとなる】
ゲンドウは語る。「全ての心が一つとなり、永遠の安らぎを得る」と。全ての人間の心を一つに合わせて、互いの心の喪失した部分を補い合う様にするのが、彼の補完計画なのだろう。この第弐拾伍話では、その計画が進行している様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２１６　加持の部屋】
回想だろうか。加持のアパートに、ミサトが転がり込んでいるらしい状況を、シンジが垣間見る。第弐拾壱話で、ミサトが一週間も学校を休んで、加持の部屋で寝ていたために、リツコが呆れるというエピソードが描かれているが、これはその時の事なのかもしれない。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２９０　医者も人間】
アスカ横顔にかぶさる男女の会話は、彼女の父親と継母のもの。継母は、第弐拾弐話の冒頭で、アスカの母親を担当していた女医と同一人物である。「医者も人間ですのよ。前にも言いましたけれど」の台詞も、第弐拾弐話の「私だって医師の前にただの人間、一人の女性ですわ」を受けている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３０６　終局の中の一つ】

パイプ椅子に座ったシンジを取り囲み、キャラクター達は語る。これはシンジ自身が、自分の弱い心を守るために選んだ、閉鎖された世界であると。それは終局の一つの形であり、シンジが導いたこの世の終わりだと。第弐拾四話から、第弐拾伍話へと連なる物語はＴＶゲームで言うところの、バッドエンディングだったのだろうか。
＊＊＊

最終話　世界の中心でアイを叫んだけもの
FINALE：Take care of yourself.
●ＴＶ平成　８年３月27日放映
＊＊＊
ＴＶシリーズの最終回。人類の補完は続いている。シンジは自分の価値や、他者との関係等について悩み、一つの結論へと辿り着く。サブタイトルの「世界の中心でアイを叫んだけもの」のアイとは、「愛」と英語の「I」をかけているのだろう。
全編が、シンジの心の中と思われる世界で展開するという異色の内容である。技法的にも、実写のスチール、ペーパーアニメ、イラスト等が駆使されており、その意味でも実験的な作品となっている。
ラストはハッピーエンド的な展開で終わる。だが、このラストは第弐拾伍話で「終局の中の一つ、この世の終わり」と語られた世界での出来事であるはずだ。ハッピーエンド的な展開も含めて「終局の一つ」なのだろうか。この最終回が、グッドエンディングなのか、バッドエンディングなのか。その判断は観る者に委ねられている。

脚本／庵野秀明
絵コンテ／摩砂雪　鶴巻和哉　庵野秀明
演出／摩砂雪　鶴巻和哉
演出助手／大塚雅彦　安藤健
＊＊＊
Ａパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ１　西暦2016年】
最終話は「時に　西暦2016年」というテロップから始まる。第壱話が「時に、西暦2015年」というテロップから始まったのと対になる形である。第弐拾伍話で始まった補完計画は、翌年、2016年になっても続いている。
＊＊＊
Ｂパート
＊＊＊
【Ｃｕｔ２４２Ｂ　新聞の見出し】
「ありえたかもしれない一つの世界」で、シンジは、ゲンドウ、ユイと共に暮らしている。アスカは幼なじみだ。ゲンドウが読んでいる新聞に「南極基地　見学に開放」の見出しがある。この世界ではセカンドインパクトが起きていない様だ。
＊＊＊
【Ｃｕｔ２４３　マンションの他の部屋】
この世界でシンジが両親と暮らしているマンションは、現実世界でミサトと暮らしていたマンションと同じ建物である様だ。だが、現実世界のマンションと違い、他の部屋にも住人がいるらしく、雨戸が開き、洗濯物が干されている。
＊＊＊
【Ｃｕｔ３２７　大陸のない地球】
シンジが自分自身の存在と、感情について気がついた時、背景が変わり、足下に青い地球が広がる。だが、その地球に大陸は無く、巨大な珊瑚海に覆われている。これは補完計画によって変貌してしまった地球なのだろうか。
＊＊＊